

和仏法律学校講義録

若槻, 禮次郎 / 矢作, 榮藏 / 松岡, 義正 / 杉本, 貞治郎 /
下村, 宏 / 山口, 弘一 / 富谷, 銚太郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-8

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1900-05-25

和佛法律學校

講義錄

第八號

第二部

現行租稅法論 (自四〇至六〇) 法學士若槻禮次郎	國際私法 (自八五至九六) 山口弘一	財政學 (自二二至三六) 法學士下村宏	經濟學各論 (自二九至三六) 法學士矢作榮藏	破產法 (自二四至四五) 法學士松岡義正	商法手形 (自三七至五二) 法學博士富谷銈太郎	商法總則 (自七八至八三) 法學士杉本貞治郎
--------------------------	--------------------	---------------------	------------------------	----------------------	-------------------------	------------------------



090
1900
2-1-8

借對照表ハ營業財産ノ貸借關係ヲ示スヘキモノナルヲ以テ營業ヲ我トシテ編製セサルヘカラサルナリ會社ノ貸借表ニ至リテハ會社即チ商人ナルヲ以テ此理益明白ナリトス

第十一號式ハ銀行ノ財産目錄ヲ示シタルモノナリ而シテ其債權ヲモ掲ケタルハ審商法ノ動産不動産ト限リシニ勝ルコト明カナリ然レトモ第十一號式ヲ取リテ第九號式ノ資産ノ部ト比較スルトキハ如何ノ差異カアル殆ト同一ナリト云フモ不可ナキカ如シ此ノ如クナレハ特ニ財産目錄ヲ作ラシムル必要ナカルヘシ財産目錄ノ摘要欄ニ於テ例ヘハ貸付金證書ノ三十通トアルモ其價格ハ合計ノミヲ掲ケルニ於テハ尙ホ營業財産ノ狀態ヲ詳ニスルコトヲ得サルヘシ宜シク其各通ニ就テ目錄調製ノ際ニ於ケル價格即チ損失ト爲ルヘキ部分ヲ控除シタル金額ヲ記載セシメサルヘカラス新商法第二十六條ノ趣旨ハ此ニ在ルナリ

財産目錄及ヒ貸借對照表ハ商人開業ノ時又會社ニ在リテハ設立登記ノ時ニ之ヲ作り又毎年一回一定ノ時期ニ於テ之ヲ作ラサルヘカラス又年二回以上利益

ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ之ヲ作ルコトヲ要ス
 財産目録及ヒ貸借對照表ハ普通商人ニ在リテハ先ツ開業ノ時ニ之ヲ作り會社
 ニ在リテハ會社設立登記ノ時ニ之ヲ作ルコトヲ要ス舊商法ハ會社ニ在リテモ
 開業ノ時ニ之ヲ作ラセムル規定ナリシカ實際會社ノ開業ハ設立登記後數多ノ
 日子ヲ隔ツルコトアリ而シテ設立登記後ハ會社ハ獨立セテ權利義務ノ主體タ
 ルヲ以テ開業前ト雖モ設立登記ヲ終リタルトキハ其財産關係ヲ明カニスルコ
 ト必要ナリ故ニ新商法ハ先ツ設立登記ノ時ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要スト改メ
 タルナリ又財産目録貸借對照表ハ年年一定ノ時期ニ於テ之ヲ作ラサルヘカラ
 ス又年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ配當期毎ニ之ヲ作ラセム蓋
 シ配當ヲ爲スニハ決算ヲ爲ササルヘカラス決算ヲ爲スニハ財産目録貸借對照
 表ヲ明カニセサルヘカラス

商人ハ其商業帳簿及ヒ營業ニ關スル信書ヲ十年間保存スル義務アリ新商法ニ
 於テハ舊法ノ如ク商業帳簿ニ法律上ノ證據力ヲ與フル主義ヲ採ラス蓋シ帳簿
 ニ法定證據力ヲ認ムルハ民事訴訟法ノ探證自由ノ原則ト抵觸スルヲ以テナリ
 然レトモ商業帳簿及ヒ營業上ノ信書ハ商業上ノ法律關係ノ爲メニハ有力ナル
 證據ト爲ルヘキモノナリコナク氏曰ク商業帳簿ニ營業者ノ不利益ト爲ルヘ
 キ記載アルトキハ是レ營業者ノ裁判所外ノ自白ナリ若シ又營業者ノ利益ト爲
 ルヘキ記載アルトキハ營業者ノ裁判所外ノ立證ナリト商業帳簿カ事實上有力
 ナル證據トシテ參考セラルヘキハ勿論ナリト雖モ其如何ナル程度ニ於テ效力
 アルヤハ各事件ニ關シテ裁判官ノ認定スル所ナリ

備考 明治三十二年六月八日大藏省令第二十四號ヲ以テ銀行條例施行細則
 ヲ改定シ新商法實施ノ日ヨリ之ヲ施行セリ然ルニ省令中財産目録ノ書式
 (第九號第一一號)ハ舊施行細則所掲ノモノト異ナルヨトナク單ニ積極財
 産ノ科目ヲノミ掲ケタルハ商法第二十六條ノ規定ニ違反スルノ疑ナキ能
 ハス

商法第二十六條ハ明カニ財産目録ニ債務ヲモ記載スヘキコトヲ規定セタ
 リ然レトモ財産目録ニ記載スヘキ債務科目ハ必スシモ貸借對照表ノ負債科
 目ト一致スルモノニ非ス何トナレハ貸借對照表ノ負債ノ部ハ營業カ第三

者ニ對スル債務關係ノミナラス營業カ金庫資本主ニ對スル債務ヲモ包含
 スルモノナリ營業者カ營業資本ヲ他ヨリ借入レタルト否トニ拘ラス常ニ其
 資本ヲ負債科目ニ掲ケルナリ故ニ會社ニ在リテハ株金ヲ負債科目ニ掲ケ
 商人營業ニ在リテハ其營業資本トシテ分別シタルモノヲ負債科目ニ掲ケ
 ルヲ常トス是レ蓋シ貸借對照表ニ在リテハ貸借關係ヲ明カニスルカ爲メ
 ニ資産ト負債トハ互ニ反對科目ヲ成シテ貸借關係ノ平準ヲ求メントスル
 フ以テナリ財産目錄ハ之ニ反シテ財産ノ現況ヲ明細ニ示スヲ以テ目的ト
 スルカ故ニ權利ト義務トヲ詳細ナル科目ニ列舉スルヲ以テ足レリトス故
 ニ各科目ニ付キ必スシモ反對科目ヲ舉ケルコトヲ要セス單ニ財産ト負債
 トヲ表明スレハ可ナリ今試ミニ新商法ノ主義ニ從ヒ財産目錄ノ書式ノ一
 案ヲ掲ケテ諸君ノ參考ニ供セン

財産目錄

積極財産ノ部

第一 不動産	時價 何圓錢厘
一 地所	何圓錢厘
一 宅地	何圓錢厘
二 建物	何圓錢厘
二 動産	何圓錢厘
一 什器	何圓錢厘
二 商品	何圓錢厘
三 未拂金	何圓錢厘
四 預り金	何圓錢厘
五 借入金	何圓錢厘
六 未拂金	何圓錢厘
七 預り金	何圓錢厘
八 借入金	何圓錢厘
九 未拂金	何圓錢厘
十 預り金	何圓錢厘
十一 借入金	何圓錢厘
十二 未拂金	何圓錢厘
十三 預り金	何圓錢厘
十四 借入金	何圓錢厘
十五 未拂金	何圓錢厘
十六 預り金	何圓錢厘
十七 借入金	何圓錢厘
十八 未拂金	何圓錢厘
十九 預り金	何圓錢厘
二十 借入金	何圓錢厘
二十一 未拂金	何圓錢厘
二十二 預り金	何圓錢厘
二十三 借入金	何圓錢厘
二十四 未拂金	何圓錢厘
二十五 預り金	何圓錢厘
二十六 借入金	何圓錢厘
二十七 未拂金	何圓錢厘
二十八 預り金	何圓錢厘
二十九 借入金	何圓錢厘
三十 未拂金	何圓錢厘
三十一 預り金	何圓錢厘
三十二 借入金	何圓錢厘
三十三 未拂金	何圓錢厘
三十四 預り金	何圓錢厘
三十五 借入金	何圓錢厘
三十六 未拂金	何圓錢厘
三十七 預り金	何圓錢厘
三十八 借入金	何圓錢厘
三十九 未拂金	何圓錢厘
四十 預り金	何圓錢厘
四十一 借入金	何圓錢厘
四十二 未拂金	何圓錢厘
四十三 預り金	何圓錢厘
四十四 借入金	何圓錢厘
四十五 未拂金	何圓錢厘
四十六 預り金	何圓錢厘
四十七 借入金	何圓錢厘
四十八 未拂金	何圓錢厘
四十九 預り金	何圓錢厘
五十 借入金	何圓錢厘
五十一 未拂金	何圓錢厘
五十二 預り金	何圓錢厘
五十三 借入金	何圓錢厘
五十四 未拂金	何圓錢厘
五十五 預り金	何圓錢厘
五十六 借入金	何圓錢厘
五十七 未拂金	何圓錢厘
五十八 預り金	何圓錢厘
五十九 借入金	何圓錢厘
六十 未拂金	何圓錢厘
六十一 預り金	何圓錢厘
六十二 借入金	何圓錢厘
六十三 未拂金	何圓錢厘
六十四 預り金	何圓錢厘
六十五 借入金	何圓錢厘
六十六 未拂金	何圓錢厘
六十七 預り金	何圓錢厘
六十八 借入金	何圓錢厘
六十九 未拂金	何圓錢厘
七十 預り金	何圓錢厘
七十一 借入金	何圓錢厘
七十二 未拂金	何圓錢厘
七十三 預り金	何圓錢厘
七十四 借入金	何圓錢厘
七十五 未拂金	何圓錢厘
七十六 預り金	何圓錢厘
七十七 借入金	何圓錢厘
七十八 未拂金	何圓錢厘
七十九 預り金	何圓錢厘
八十 借入金	何圓錢厘
八十一 未拂金	何圓錢厘
八十二 預り金	何圓錢厘
八十三 借入金	何圓錢厘
八十四 未拂金	何圓錢厘
八十五 預り金	何圓錢厘
八十六 借入金	何圓錢厘
八十七 未拂金	何圓錢厘
八十八 預り金	何圓錢厘
八十九 借入金	何圓錢厘
九十 未拂金	何圓錢厘
九十一 預り金	何圓錢厘
九十二 借入金	何圓錢厘
九十三 未拂金	何圓錢厘
九十四 預り金	何圓錢厘
九十五 借入金	何圓錢厘
九十六 未拂金	何圓錢厘
九十七 預り金	何圓錢厘
九十八 借入金	何圓錢厘
九十九 未拂金	何圓錢厘
一百 預り金	何圓錢厘

消極財産ノ部

第一 借入金	何圓錢厘
一 借入金	何圓錢厘
二 未拂金	何圓錢厘
三 預り金	何圓錢厘
四 借入金	何圓錢厘
五 未拂金	何圓錢厘
六 預り金	何圓錢厘
七 借入金	何圓錢厘
八 未拂金	何圓錢厘
九 預り金	何圓錢厘
十 借入金	何圓錢厘
十一 未拂金	何圓錢厘
十二 預り金	何圓錢厘
十三 借入金	何圓錢厘
十四 未拂金	何圓錢厘
十五 預り金	何圓錢厘
十六 借入金	何圓錢厘
十七 未拂金	何圓錢厘
十八 預り金	何圓錢厘
十九 借入金	何圓錢厘
二十 未拂金	何圓錢厘
二十一 預り金	何圓錢厘
二十二 借入金	何圓錢厘
二十三 未拂金	何圓錢厘
二十四 預り金	何圓錢厘
二十五 借入金	何圓錢厘
二十六 未拂金	何圓錢厘
二十七 預り金	何圓錢厘
二十八 借入金	何圓錢厘
二十九 未拂金	何圓錢厘
三十 預り金	何圓錢厘
三十一 借入金	何圓錢厘
三十二 未拂金	何圓錢厘
三十三 預り金	何圓錢厘
三十四 借入金	何圓錢厘
三十五 未拂金	何圓錢厘
三十六 預り金	何圓錢厘
三十七 借入金	何圓錢厘
三十八 未拂金	何圓錢厘
三十九 預り金	何圓錢厘
四十 借入金	何圓錢厘
四十一 未拂金	何圓錢厘
四十二 預り金	何圓錢厘
四十三 借入金	何圓錢厘
四十四 未拂金	何圓錢厘
四十五 預り金	何圓錢厘
四十六 借入金	何圓錢厘
四十七 未拂金	何圓錢厘
四十八 預り金	何圓錢厘
四十九 借入金	何圓錢厘
五十 未拂金	何圓錢厘
五十一 預り金	何圓錢厘
五十二 借入金	何圓錢厘
五十三 未拂金	何圓錢厘
五十四 預り金	何圓錢厘
五十五 借入金	何圓錢厘
五十六 未拂金	何圓錢厘
五十七 預り金	何圓錢厘
五十八 借入金	何圓錢厘
五十九 未拂金	何圓錢厘
六十 預り金	何圓錢厘
六十一 借入金	何圓錢厘
六十二 未拂金	何圓錢厘
六十三 預り金	何圓錢厘
六十四 借入金	何圓錢厘
六十五 未拂金	何圓錢厘
六十六 預り金	何圓錢厘
六十七 借入金	何圓錢厘
六十八 未拂金	何圓錢厘
六十九 預り金	何圓錢厘
七十 借入金	何圓錢厘
七十一 未拂金	何圓錢厘
七十二 預り金	何圓錢厘
七十三 借入金	何圓錢厘
七十四 未拂金	何圓錢厘
七十五 預り金	何圓錢厘
七十六 借入金	何圓錢厘
七十七 未拂金	何圓錢厘
七十八 預り金	何圓錢厘
七十九 借入金	何圓錢厘
八十 未拂金	何圓錢厘
八十一 預り金	何圓錢厘
八十二 借入金	何圓錢厘
八十三 未拂金	何圓錢厘
八十四 預り金	何圓錢厘
八十五 借入金	何圓錢厘
八十六 未拂金	何圓錢厘
八十七 預り金	何圓錢厘
八十八 借入金	何圓錢厘
八十九 未拂金	何圓錢厘
九十 預り金	何圓錢厘
九十一 借入金	何圓錢厘
九十二 未拂金	何圓錢厘
九十三 預り金	何圓錢厘
九十四 借入金	何圓錢厘
九十五 未拂金	何圓錢厘
九十六 預り金	何圓錢厘
九十七 借入金	何圓錢厘
九十八 未拂金	何圓錢厘
九十九 預り金	何圓錢厘
一百 借入金	何圓錢厘

商法規則 商業帳簿

七七

第六章 商業使用人

本章及ヒ次章ハ商人ノ商業上ノ機關タルヘキ者ヲ規定セリ本章ハ舊商法第一編第五章代務人及ヒ商業使用人ニ該當スルモノニシテ舊法ノ所謂代務人ト商業使用人トヲ總稱シテ商業使用人ト名ケタルナリ商業使用人ト商業主人トノ關係ハ設定行為ニ基クモノニシテ此設定行為ノ趣旨ニ從ヒ商業使用人ノ權利義務一樣ナラス此權利義務ノ體様ニ從テ法律ハ更ニ商業使用人ニ種種ノ名稱ヲ區別シ支配人手代番頭等ト稱スルナリ

商業使用人ヲ設定スル行為ハ總テ民法上ノ行為ナリ委任、雇傭、代理權ノ授與等故ニ商業使用人ノ權利義務又ハ主人ト第三者トノ關係ニシテ商事上特別規定ヲ要セサルモノハ商法ニ於テ規定スル必要ナシ是レ新商法カ舊法ノ代務人及ヒ商業使用人ニ關スル數多ノ規定ヲ削除セシ所以ナリ

商業使用人ヲ分チテ二種トス一ハ主人ニ代リテ法律行為ヲ爲スコトヲ得ル權限ヲ有スル者ナリ二ハ主人ニ代リテ法律行為ヲ爲ス權限ヲ有セサル者ナリ第

一種ニ屬スル者ハ支配人手代番頭等ナリ支配人手代番頭ニ非ナル商業使用人ハ第二種ニ屬スル者ト推定セラレ(第三、四條然レトモ實際此二種ノ商業使用人ハ必ス常ニ判然タル區別アルモノニ非ス即チ支配人ニシテ法律行為ニ非サル事務ヲモ擔任スル者アリ又支配人手代番頭ニ非スシテ法律行為ヲ爲スヘキ委任ヲ受クル者アルナリ第一種ノ内更ニ支配人手代番頭トハ權限ノ性質ニ區別アリ支配人ノ權限ハ法律上一定ノ範圍アリ主人ハ之ヲ制限スルコトヲ得ルモノヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ナルナリ手代又ハ番頭ノ權限ハ之ニ反シテ其代理權ノ範圍ハ一ニ代理權設定行為ノ趣旨ニ因リテ定マリ法上ノ制限ナシ

第一節 代理權アル商業使用人

第一 支配人

商人ハ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムル爲メニ支配人ヲ選任スルコトヲ得新商法ハ支配人選任ノ方法ハ總テ民法ノ代理權設定方法ニ依ルヘキモ

ノトシ選任ヲ登記セシムル外別段ノ規定ヲ設ケス舊商法ニ於テハ支配人ノ選任ニハ明示ノ委任ヲ要スルコトヲ規定セリト雖モ已ニ登記セシムル以上ハ必スシモ明示ノ委任ヲ必要トセサルヲ以テ削除セリ
 支配人選任ニ關シテ一問題アリ即チ共同支配人ヲ選任スルコトヲ得ルヤ是ナリ

舊商法及ヒ獨逸商法ハ共ニ共同代務人ヲ認メタリ然ルニ新商法ニハ其規定ヲ削除セリ是ニ於テ解釋上共同支配人ヲ置クコト得ルヤ否ヤノ疑問ヲ生ス按スルニ此問題ハ支配人ノ共同ハ支配人ノ代理權ノ制限ト爲ルヤ否ヤノ問題ニ歸スルナリ抑モ共同支配人トハ如何ナル權限ヲ有スルモノナルヤ獨逸舊商法第四十四條ニハ共同代務ニ在リテハ各代務人ハ其名ヲ商號ニ附記セサルヘカラスト規定セリ獨逸新商法ハ此規定ヲ以テ當然ナリト爲シ削除セリ又我舊商法第四十四條ニ依レハ共同代務人ハ總員共同ニ非サレハ代理行爲ヲ爲スコトヲ得ス此等ノ規定ニ就テ所謂共同支配人ノ權限ヲ推測スルトキハ共同者ノ各人ハ獨立シテ支配人ノ全權ヲ有スルモノニ非サルハ勿論支配人ノ權限ヲ分別シ

テ各人カ之ヲ分擔スルノ謂ニ非ス恰モ共有者ノ權利ノ如ク各人カ支配人ノ事務ノ各部ニ權限ヲ有シ而モ其權限ハ完全ナル代理權ニ非スシテ他ノ支配人ト共同シテ始メテ行フコトヲ得ヘキ權限ナリ即チ共同支配人總員ハ一支配人タルナリ此總員ヲ以テ一支配人ト視ル以上ハ支配人ノ權限ハ一モ制限セラレタル所ナシ已ニ支配人ノ權限ヲ制限シタルモノニ非ストスレハ法律ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ共同支配人ヲ選任スルコトヲ妨クサルナリ此ニ注意スヘキハ支配人ノ權限ヲ共同シテ行ハシムルコトハ妨クナキモ權限ヲ區分シテ數人ニ分與スルコトハ爲シ得サルナリ支配人ノ權限ヲ數人ニ分與スルトキハ各員ハ其分擔事務ニ付テハ專權ヲ有スト雖モ他ノ事務ニ關シテハ毫モ權限ヲ有セス是レ支配人ノ權限ヲ共同ニ行フモノニ非スシテ各部分ノ事務ニ付キ完全ナル代理權ヲ有スルノミ夫レ支配人ノ權限ハ法定ニシテ分割スルコトヲ得ス之ヲ分割スルトキハ手代番頭等ノ代理權ト同種ニシテ復タ支配人ノ權限ニ非ス然レトモ主人ノ營業ニシテ數多ノ營業所支店アル場合ノ如キアル場合ニ於テ各營業所ニ支配人ヲ置キ其營業所ノ事務ニ付テノミ支配人ノ權限ヲ付與スルハ法

律ノ許ス所ナリ第二十九條ニ曰ク商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ商業ヲ營マシムルコトヲ得ト即チ本店又ハ支店ノ事務ニ專任ノ支配人ヲ置クコトヲ認メタルナリ而シテ此場合ニ於テハ其所管營業所ノ事務ニ關シテハ一切ノ權限ヲ有スルモノナリ

支配人ハ主人ニ代リテ其商業ヲ營ミ其商業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス而シテ支配人ハ民法第百四條ノ規定ニ依リ其事務ニ關シ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ト雖モ已ニ商業ニ關スル一切ノ代理權ヲ有スル者ナルヲ以テ之ニ手代番頭等ノ使用人ヲ選任解任スル全權ヲ認ムルハ實際ニ便利ニシテ寧ロ主人ノ意思ニモ適フナリ故ニ法律ハ明カニ之ヲ支配人ノ權限ニ屬セシメタリ第三〇條第二項然レトモ支配人カ支配人ヲ選任スルコトヲ許ササルナリ

上述ノ如ク支配人ハ營業ニ關スル一切ノ事務ニ代理權ヲ有シ又支配人ノ外總テノ商業使用人ヲ選任解任スルコトヲ得ル權限ヲ有ス此ノ如ク支配人ノ權限ハ法律ニ依リ其範圍一定ス是レ支配人カ手代番頭等ト異ナル所ナリ然レトモ

主人ハ支配人ノ法定權限ヲ制限スルコトヲ得ヘシ但シ此制限ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス第三〇條第三項獨逸商法ニ於テハ支配人ハ不動産ノ讓渡貸貸及ヒ不動産所有權ニ制限ヲ受クヘキ行爲ニ付テハ特ニ委任アルニ非サレハ代理權ナシト雖モ其權限ノ制限ハ第三者ニ對シテハ善意惡意ヲ問ハス絶對ニ效力ナシ抑モ善意ト惡意トハ之ヲ判別スルコト甚タ難シ故ニ支配人ノ權限ノ制限ハ第三者ニ對シテハ絶對ニ效力ナシト規定スルコト便利ナルカ如シ然レトモ是レ我國ノ習慣ニ非サルノミナラス此制限ヲ知リテ支配人ト取引セル者ハ支配人自身ト取引セル意思ニ非スンハ主人ノ追認ヲ得テ始メテ有效ト爲サントスル意思ヲ以テ取引セルモノト謂ハサルヘカラス然ラハ法律カ強テ之ヲ主人ノ行爲ト看做ワテ主人ニ責任ヲ負ハシムル必要ナキナリ且ツ夫レ惡意ナルコトヲ證明スル責任ハ主人ニ在ルヲ以テ無辜ノ第三者ヲ害スルコトハ少カルヘシ

支配人ノ權限ハ法定ニシテ其範圍極メテ廣シ故ニ主人ノ信用ヲ負フコト亦隨テ大ナリ是ヲ以テ支配人ハ主人ノ商業ノ爲メニ其全力ヲ盡ササルヘカラス

ハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリトス故ニ法律ハ支配人ヲシテ此忠實義務ヲ盡サシ
 メンカ爲メニ支配人ハ主人ノ許諾アルニ非ナレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ商
 行爲ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得スト規定セリ蓋シ合名會
 社合資會社等ノ無限責任社員ハ必スシモ其會社ノ事務ヲ執行スルモノニ非ス
 ト雖モ其會社ト利害關係甚タ深密ナルカ故ニ主人ノ營業ト利害ノ衝突ヲ來ス
 コトナシトセサルナリ株式會社ノ取締役ノ如キハ其ノ會社即チ第三者ノ爲メニ
 商行爲ヲ爲スモノナルヲ以テ支配人ハ取締役ニ選任セラレルコトヲ得ス此ニ
 注意スヘキハ此支配人ノ行爲ニ關スル禁止規定ト似テ非ナルモノアリ代理商
 (第三八條)及ヒ株式會社ノ取締役(第一七五條)禁止規定是ナリ代理商又ハ取締
 役ニ關シテハ本人ノ營業ニ屬スル商行爲ヲ爲スコト又ハ同種ノ營業ヲ目的ト
 スル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ禁シタリ是レ代理商又ハ取締役ニ在リ
 テハ主トシテ利害ノ衝突ヲ恐レタルナリ之ニ反シテ支配人ハ單ニ利害ノ衝突
 ヲ避クヘキノミナラス主人ノ商業ノ爲メニ全力ヲ盡スヘキモノト爲シ營業ノ
 同種ト否トヲ問ハス總テ商行爲ヲ禁シ又一般ニ商事會社ノ無限責任社員タ

ルコトヲ禁シタルナリ

支配人カ此禁止ニ違反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ主人ハ之ヲ
 以テ自己即チ本人ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得第三二條第二項此
 權利ハ支配人ニ對スル權利ニシテ之ヲ以テ第三者即チ相手方ニ對抗スルコト
 ヲ得ス故ニ本人ハ唯支配人ニ對シテ其行爲ヨリ得タル物件又ハ權利ノ移轉ヲ
 請求シ得ヘキノミ而シテ此權利ハ其行爲ヲ主人カ知リタルトキヨリ二週間之
 ヲ行ハサルトキ又ハ行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過セタルトキハ消滅ス

支配人ノ權限ハ民法ノ代理權消滅原因ニ因リテ消滅ス支配人代理權ノ消滅ハ
 之ヲ登記スルコトヲ要ス即チ支配人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ登記ニ因リ
 テ第三者ニ對シ效力ヲ生スルナリ

注意 支配人ハ必ス支配人ト稱スルコトヲ要スルヤ或ハ他ノ名稱ヲ附スル
 コトヲ得ルヤ法律ニ規定ナシ然レトモ特ニ之ヲ禁セサル限りハ他ノ名稱
 ヲ附スルモ妨クナカルヘシ但シ支配人ニ非サル者ハ支配人ト稱スルコトヲ
 得スト信ス何トナレハ商法施行法第十九條ニ於テ從來支配人又ハ支配役ト

稱スル者ニシテ支配人ノ權限ヲ有セサル者ハ商法施行ノ日ヨリ三箇月内ニ其名稱ヲ改ムヘキコトヲ命シタルヲ以テ商法ハ支配人ニ非サル者ハ支配人ト稱スルコトヲ許ササル精神ナリト解釋セサルヘカラサレハナリ又立法ノ理由ヨリ推測スルモ支配人ノ權限ハ甚タ強大ナル法定權限ナルニ支配人ニ非サル者ヲシテ支配人ナル名稱ヲ借用セシムルハ公衆ヲ惑ハスノ恐アルナリ然レトモ商法施行後ニ於テ支配人ニ非スシテ支配人ト稱スル者アラハ之ヲ如何ニ處置スヘキカ商法施行法第十九條第二項ハ商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者ニ關シテハ之ヲ支配人ト看做スト規定セルニ拘ラス商法施行後ニ支配人ト稱スル者ニ關スル規定ナキヲ以テ之ト取引ヲ爲シタル第三者ハ本人ノ追認ヲ求ムルカ又ハ民法第一百條又ハ損害賠償ノ規定ニ依リ救済ヲ求メサルヘカラス

第二 手代番頭

手代及ヒ番頭ハ代理權ヲ有スル商業使用人ナリト雖モ其代理權ノ範圍ハ法律上一定セシムル手代及ヒ番頭カ支配人ト異ナル要點ナリ手代及ヒ番頭ノ權限

カヲ生スルノ規定ノ如キ又偽造變造ニ關スル第四百三十七條及ヒ第四百三十八條ノ規定ノ如キハ契約說ヲ以テハ允當ナル說明ヲ爲スニ由ナキ等ノ法文アルヨリ推考スレハ新商法ハ專ロ單獨行為說ニ據リタルモノナリト謂フコトヲ得ヘキカ如シ然リト雖モ是レ仍ホ學者ニ於ケル未定ノ一大問題ニ屬スル事項ナルヲ以テ容易ニ斷定スヘキモノニ非サルヤ言フヲ俟タス唯吾輩ハ單獨行為說ハ新商法ノ規定ノ基ヲ所ナルヘシト解釋スルヲ以テ允當ナリト信スルニ過キサルナリ

以下手形ニ關スル商法ノ規定ニ付キ說明セントス

第一章 總論

第一節 手形ノ區別

手形ヲ區別シテ爲替手形約束手形小切手ノ三種ト爲シタルハ新商法ノ規定ナリ爲替手形ト約束手形トノ區別ハ手形行為ニ因ル權利ノ性質ニ依リテ之ヲ求ムヘキニ非ス蓋シ手形債務ハ形式ニ依リテノミ成立スヘキモノニシテ形式ハ

即チ手形權利ノ發生スル原因ナリト謂フヘシ故ニ各手形ノ形式ニ依リテ之ヲ區別スルハ最モ明瞭ニシテ且ツ簡易ナリト信ス爲替手形ニ於テハ形式上必ス支拂ノ委託ヲ示スコトヲ要ス支拂ノ委託ナキトキハ爲替手形ニ非サルナリ但シ支拂ノ委託ハ事實上存スルコトヲ必要トセス事實上支拂ノ委託アリシヤ否ヤハ爲替手形ノ成立ニ關係ナシ荷モ手形ニ支拂委託ノ記載アレハ縱令其記載ハ事實ニ反スルトキト雖モ爲替手形ノ形式ニシテ完全ナル以上ハ手形トシテ其效力ヲ有ス勿論一面識ナキ者ニ對シ振出人カ手形ノ支拂ヲ委託スルコトハ極メテ稀ナルノミナラス殆ト其例ナキコトニシテ振出人ト支拂人トノ間ニ於テハ手形關係以外ニ於テ貸借其他ノ債務關係アルニ因リ委託ヲ爲スヲ通例トスルモ此等ノ關係ノ存在ハ委託ヲ爲スノ要件ニ非ス而シテ爲替手形支拂ノ委託ナルモノノ徵標ハ我國ニ於テハ爲替手形ノ末文ニ「仰支拂可被下候又ハ御支拂可被成候」ト記載スルニ在リ

此ノ如ク爲替手形ニハ支拂ノ委託ヲ要スルカ故ニ其必然ノ結果トシテ手形ノ形式上少クトモ三人格ヲ要ス手形ヲ作成シテ支拂ノ委託ヲ爲ス者即チ振出人

手形支拂ノ委託ヲ受クル者即チ支拂人最初ニ手形上ノ權利ヲ享有スル者即チ受取人はナリ而シテ通例ノ場合ニ於テハ振出人支拂人及ヒ受取人ハ各別人ナルモ必スモ別人タルコトヲ要セス舊商法ニ於テモ又新商法ニ於テモ振出人ハ自己ヲ支拂人又ハ受取人ト爲スコト隨意ナリ

右三人格ヲ具備シ且ツ其記載事項ニシテ法律ニ適スルニ於テハ茲ニ手形債務ハ發生ス然レトモ前ニモ述ヘタルカ如ク手形ノ支拂ノ義務ハ手形ニ支拂人ト記載セラレタルノミヲ以テ直チニ生スルモノニ非ス支拂人ノ支拂義務ハ所持人ニ對シテ支拂ノ引受ヲ爲シタル時始メテ生スルモノナリ故ニ支拂人カ引受ヲ爲ササル以前ニ於テハ決シテ手形ノ主タル義務者ナシ手形所持人ハ振出人及ヒ其前者タル裏書人ニ對シテ條件附債權ヲ有スルニ過キス換言セバ手形カ支拂ハレサル場合ニ於テ振出人及ヒ其裏書人ニ對シテ債權請求ヲ爲スコトヲ得ヘキノミ

約束手形ハ全ク之ト異ニシテ所謂支拂ノ委託ナルモノヲ包含セス宛モ單純ナル債務證書ニ於ケルモノノ如ク二人格間ニ於テ成立ス實際ニ於テモ手形面上

彼此ノ區別ヲ爲スヘキ徵標ハ極メテ明白ニシテ振出人ハ自ら支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ記載ス即チ支拂可申候ノ文言ヲ以テスルヲ通例トシ決シテ他ニ支拂ヲ委託スルコトナシ故ニ約束手形ノ振出人ハ主タル債務者ニシテ償還義務者ニ非ス之ニ反シテ爲替手形ニ於テハ振出人ハ支拂ノ義務ナク單ニ償還義務ヲ負フニ過キス

前ニ述ヘタルカ如ク爲替手形ノ振出人ハ自己ヲ支拂人ト爲スコトヲ得ルカ故ニ此場合ニ於ケル爲替手形ハ一見約束手形ト區別ナキカ如シト雖モ二者同一ニ非サルコト極メテ明カナリ何トナレハ爲替手形ノ振出人ハ自己ヲ支拂人ト爲シタルトキト雖モ支拂ノ引受ヲ爲スニ非サレハ支拂ノ義務ヲ有スルコトナケレハナリ故ニ爲替手形ノ所持人ニシテ主タル債務者ヲ得ントスルニハ振出人ナル支拂人ニ對シテ支拂ノ引受ヲ求ムル手續ヲ要スルモノトス

小切手トハ寄託其他ノ方法ニ因リ支拂人ヨリ金錢ヲ引出シ得ヘキ者カ之ニシ自己又ハ第三者ニ一定ノ金額ヲ支拂ハシムルコトヲ委託スル證券ナルカ故ニ爲替手形ニ於ケルト同シク其成立ニハ必ス三人格即チ振出人支拂人受取人

アルコトヲ要シ形式上二者殆ト同一ナリトス然レトモ其支拂ノ委託ヲ爲ス人ト支拂ノ委託ヲ受クル人トノ關係ハ爲替手形ニ於テ支拂ノ委託ヲ爲ス者ト其委託ヲ受クル者トノ間ニ存スルモノノ如クナルコトヲ得ス小切手ニ依ル支拂ノ委託ハ爲替手形ニ於ケルカ如ク何人ヨリ何人ニ對シテモ之ヲ爲シ得ルモノニ非ス小切手ノ支拂人ト爲ル者ハ寄託其他ノ方法ニ因リ其振出人ニ對シ金錢ヲ拂出ス債務ヲ有スルカ若クハ之カ爲メ信用ヲ與フル者ナラサルヘカラス則チ小切手ニ於テハ其成立ト同時ニ振出人ト支拂人トノ間ニ於テハ他ノ法律關係ニ因ル金錢上ノ債務關係アルモノナリ而シテ小切手ニハ支拂ノ引受ニ關スル規定ノ適用ナシ第五三〇條第五三一條第五三六條第五三七條參照

小切手ノ支拂人ハ必スシモ商人タルコトヲ要セサルモ普通ノ場合ニ於テハ其支拂人ハ銀行ナリ銀行ニ非スシテ小切手ノ支拂人タル場合ハ實際上殆ト之ナシ蓋シ小切手ノ用ハ商人又ハ其他頻繁ナル金錢ノ取扱ヲ爲ス者カ自ラ之ヲ保管スルコトヲ爲サス勞費ヲ省キ且ツ安全ノ保管ヲ爲スカ爲メ之ヲ銀行ニ委託シ其需要ニ應シ自己又ハ債權者ノ爲メ其保管セシムル金錢ヲ銀行ヨリ引出ス

便宜ニ供スル場合特ニ多シ是レ實際ニ於テハ銀行營業人ニ非サル者カ小切手ノ支拂人タルコトナキ所以ナリ舊商法ニ於テハ支拂人ハ必ス銀行タルコトヲ要シ其他ノ者ハ支拂人ト爲ルコトヲ得ザリシモ斯ル狹隘ナル規定ヲ存スヘキ理由ナキカ故ニ新商法ニ於テハ此制限ヲ排斥シタリ(第五三〇條)是レ新舊法ニ於ケル差異ノ著シキ所ナリ

以上ヲ以テ手形ニ於ケル三種ノ區別ノ概要ヲ説明セリ以下其特別ノ性質ニ付キ説明セントス

第二節 手形債務ノ特質

手形債務ノ性質ノ特別ナル要點ハ峻嚴ナル規定ニ依ルヘキモノナリト云フニ在リ換言スレハ嚴格ナル規定ノ支配ヲ受タルモノナルコト是ナリ左ニ其點ヲ説明スヘシ

第一 手形債務ハ嚴格ナル形式ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス是レ其重ナル點ナリ既ニ總論ニ於テモ述ヘタルカ如ク手形債務ハ書面ニ依リテノミ

成立スルモノナルカ故ニ書面ナキ場合ニハ縱令如何ナル明確ノ意思表示アルモ所謂手形債務ハ成立スルコトナシ手形債務ノ成立ニハ法律ノ規定シタル形式ニ從ヒ手形ヲ作成スルコトヲ必要トス此規定ニ依リテ振出人カ其意思ヲ表示シ署名ヲ爲シタルトキ始メテ手形債務カ成立ス振出人ノ署名ハ自署ナルコトヲ要スルヤ言フ俟タズ若シ其署名ニシテ眞正ナルモノニ非ザルトキハ振出人ニ對シ手形上ノ效力ヲ生スルコトナシ或ハ非難シテ曰ハン手形ハ峻嚴ナル形式ニ依リテ成立スルモノナリトスル以上ハ他人ノ偽造ニ係ル手形ニ付テモ其偽造セラレタル者ヲシテ善意ノ取得者ニ對シテハ有效ニ義務ヲ負擔セシムヘキ規定ヲ設ケサレハ手形ノ融通ヲ妨害スルニ至ラント然レトモ所謂手形ノ峻嚴ナル規定ヲ以テ此ノ如ク極端ニマア適用スルニ必要ナシ何トナレハ手形ノ債務ハ形式ニ重キヲ置キテ成立スルモノナリトスルモ自ラ債務ヲ負擔スルノ意思ヲ表示セサル者ニ對シテモ債務ヲ負擔セシムヘキ理ナケレハナリ故ニ手形債務ノ成立ハ嚴格ナル形式ニ依ルト同時ニ其作成者ハ眞ニ自己ノ意思ヲ表示スルヲ必要トス而シテ手形ノ署名ハ必ス自署スルコトヲ要シ活字其他印刷方

法ニ依ル記名ハ手形ヲ成立セシムル效力ナキモノトシ偽造ヲ防クコトヲ期シタル商法ノ規定ハ本年二月二十四日ノ法律第十七號ニ因リテ其目的ノ幾部ヲ浸蝕セラル何トナレハ此法律ニ依レハ自署ニ代フルニ記名捺印ヲ以テスルコトヲ得ルカ故ニ記名ハ代書若クハ印刷ニ依ルコトヲ妨ケサルニ至レルヲ以テナリ」手形ハ代理人ヲシテ之ヲ振出サシムルコトヲ得但シ代理人ヲシテ手形ヲ作成セシムル場合ニ於テハ代理人ハ手形行爲ノ當事者ニ非サルコト勿論ナレトモ代理人ノ作成シタル手形カ本人ノ爲メニ有效ナルニハ手形面ニ代理ノ旨ヲ記載セサルヘカラス諸君ノ既ニ知ラルル如ク新商法ニ於テハ商行爲ノ代理ハ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示ササルモ代理ノ效力ヲ生スヘキモノトセリ(第二六六條)而シテ手形行爲ハ商行爲第二六三條第四ナルモ之ニ依ルヘキモノニ非ス手形行爲ニ於ケル代理ハ手形上明カニ其代理タル旨ヲ記載スルコトヲ要ス若シ其記載ナキトキハ代理ニ由ルモノナリトノ證據ハ如何ニ明瞭ナルニモ拘ハラズ手形ハ代理人其者ノ行爲トシテ效力ヲ生スヘキノミ(第四三五條)第四三六條是レ手形ハ要式的行爲ナリトノ結果ニ外ナラス

以上述フルカ如ク法律ノ規定ニ依ル書面ニ因リテノミ成立スル手形行爲ハ各獨立シテ一ノ手形行爲ヲ爲スモノナルヲ以テ手形ノ形式ヲ具備シタル手形ニ因ル行爲ノ取消又ハ無効ノ事由ハ其他ノ手形上ノモノニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ例ヘハ無能力者カ手形ノ振出人ノシテ手形ヲ振出タル場合ニ於テハ振出人ハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ヘク若シ之ヲ取消シタルトキハ振出人ハ固ヨリ手形上ノ義務ヲ負フコトナシ然レトモ他ノ手形關係人ノ行爲ハ之カ爲メニ影響ヲ受クルコトナキカ如此場合ノ振出人ハ手形上債務ヲ負フコトナキモ其支拂ノ引受ヲ爲シタル者ハ振出人ニ義務ナキコトヲ理由トシ手形取得者ニ對シテ手形金額ノ支拂義務ナキコトヲ主張スルコトヲ得ス蓋シ手形行爲ハ各獨立ナルモノニシテ一ノ手形行爲ハ他ノ行爲トハ此點ニ於テハ何等ノ關係ナケレハナリ又例ヘハ甲者カ乙者ノ商界ニ信用アルコトヲ知り其氏名ヲ偽造シテ爲替手形ヲ振出シタリトセンニ乙者ハ之ニ因リ手形上義務ヲ負ハナルコトハ前例振出人ノ如シ然レトモ若シ其手形ノ受取人ナル丙者カ丁者ニ裏書譲渡ヲ爲シタルトキハ乙者ハ手形上ノ義務ヲ負フコトナキニ拘ラス丙者ハ

手形裏書人トシテ丁者ニ對シ償還義務ヲ負擔セラルヘカラス又右ノ場合ニ於テ手形保證ヲ爲シタル者アルトキハ其者ハ手形所持人ニ對シ保證ニ因ル手形義務ヲ負ハサルヘカラス

手形行爲ハ嚴格ナル方式ニ依リ成立スルモノナリトノ結果トシテ若シ原手形ノ形式ニ欠缺アルトキハ手形ニ關スル總テノ行爲裏書引受保證モ亦無効ナリ何トナレハ基本タル手形ノ無効ハ之ニ附帶シテ成立スルコトヲ得ル他ノ行爲ノ成立ヲ妨クルコトハ必然ノ理ナレハナリ例ヘハ五百圓ノ金額ヲ記載シタル爲替手形ヲ無記名式ニテ拂出シタル場合ニ於テ支拂人カ引受ヲ爲シタルトキノ如シ其引受人ハ此手形上ノ義務ヲ負フコトナシ何トナレハ此場合ニ於テハ原手形自體カ適法ニ存在セタルカ故ニ縱令支拂人ノ引受行爲アリトスルモ引受ノ効力ヲ生スルヲ得サレハナリ或ハ之ヲ以テ手形行爲ハ獨立ナリトノ原則ニ反セサルヤノ疑念ヲ生スル者アラザレトモ各手形債務ハ獨立シテ成立スルモノナリトノ規則ハ基本タル手形カ適法ニ成立シタルコトヲ前提條件トスルニ依リテ存スルモノニシテ根本タル手形ニ形式ヲ缺ク場合ト雖モ爾後ノ手

形行爲カ成立スト謂フニ非サルナリ要スルニ手形行爲ノ獨立トハ原手形形式カ完全ニ具備シ有效ニ成立シタルトキ之ニ依リテ爲シタル行爲ニ付キ謂フヘキモノナリ(第四三五條第四三七條參照)

第二 手形ノ債務ニハ原因ヲ必要トセス此點ハ益以テ手形上ノ債務ハ嚴格ナル形式ニ依リ存スルモノナルコトヲ表示スルモノナリ法律上形式ニ適合スル手形自體ハ即チ手形債務ノ原因ナリ換言スレハ手形債務ハ法律ノ規定ニ從ヒテ作成シタル手形カ存スル以上ハ其成立スルニ至リタル理由ト如何ヲ問ハス直チニ成立スルモノト謂ハサルヘカラス蓋シ手形債務ハ手形ノ形式ヲ具備シタル書面ニ依リテ直チニ成立シ其成立ノ原因ヲ問ハストハ前項ニ於テ述ヘタル如ク手形ハ嚴格ナル方式ニ依リテ成立スト云フ規定ト相持チテ缺クヘカサルモノナリ何トナレハ手形債務ハ手形ノ作成ニ依リテ直チニ成立スルモノナリトスルモ若シ其成立シタル債務原因ニ遡リテ債務ノ有無ヲ爭フコトヲ許スニ於テハ手形ハ到底安全ニ容易ニ流通スルコトヲ得サルノ結果ヲ生スレハナリ若シ手形ヲ取得セント欲スル者ハ手形ノ支拂人ハ果シテ手形以外ニ於

ヲ其支拂ヲ爲ス義務ヲ有シ支拂ヲ承諾シタル者ナリヤ否ヤ又償還請求ヲ受クヘキ者ハ既ニ手形ノ對價ヲ受取リタルニ因リテ償還ノ義務ヲ有スルヤ否ヤヲ調査スルコトヲ要ストモシカ手形ハ裏書ニ依リ又受渡シ^レノミニ依リテ移轉スルコトヲ得ス隨テ流通證券タルコト能ハサルナリ故ニ手形ノ債務ハ手形ノ存立ノミニテ成立スルモノト爲テサルヘカラスナルヤ明カナリ舊商法ニ於テハ特ニ之ニ關スル條文ヲ設ケタリシモ新商法ハ之ヲ刪除シタリ蓋シ事理當然ナルニ因ルナリ

第三 手形債務カ峻嚴ナルコトハ手形債務者カ手形債權者ニ對抗シ得ヘキ抗辯事由ノ制限ニ於テ其著シキヲ見ルヘシ手形債務者カ手形上ノ權利ヲ行フ者ニ對シテ對抗シ得ヘキ事由ハ他ノ一般法律行爲ニ於ケルモノト同シカラス其對抗シ得ヘキ事由ハ手形ノ規定上特ニ定メタルモノ又ハ債務者ヨリ債權者ニ對シ直接ニ對抗シ得ヘキモノナラサルヘカラス例ヘハ手形ノ形式カ具備セザルコト裏書ニ間斷アルコト(第四六四條)呈示期間ヲ經過シタルコト(第四六六條)第二項第五二七條第二項手形上ノ手續ニ欠缺アルコト等ヲ以テ抗辯ノ事由ト爲

スカ如キハ法律ノ規定ニ依ルモノナリ(第四四〇條)第四六七條第二項(四七二條)第二項(四八二條)第二項(四八七條)第二項(四八八條)第四九〇條第二項(五〇〇條)第一項(五〇五條)第五〇八條(第三項)第五二一條(第二項)第五二八條(第二項)第五三三條(第二項)參照

次ニ直接ノ抗辯トハ例ヘハ手形ノ債務者カ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其請求者ハ惡意ノ手形所持人ナルコト即チ偽造、變造ノ手形ナルコトヲ知リテ讓受ケタル者ナルコトヲ以テ抗辯ノ事由ト爲ス場合又ハ詐欺、強暴ニ因リテ手形ヲ作成シタル手形債務者ハ詐欺、強暴者ニ對シテノミ之ヲ以テ抗辯ノ事由ト爲スコトヲ得ヘキ場合ノ如シ故ニ若シ其手形カ轉讓シテ善意ノ取得者ニ歸シ又ハ詐欺、強暴者以外ノ所持人カ之ヲ取得シタルトキハ之ニ對シテハ復タ右ノ事由ヲ對抗スルコトヲ得サルナリ

第四 手形債務ハ峻嚴ナル法則ニ從フコト右ニ說明シタルカ如クナルノミナラス手形權利ヲ行フ者モ亦峻嚴ナル規定ノ下ニ在リテ其權利ヲ行使セザルヘカラス例ヘハ手形ノ所持人カ完全ニ其權利ヲ保全セントスルニハ滿期日又ハ

其後二日內ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシメ且ツ償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ拒絶證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要スルカ如シ手形ノ支拂ナカリシトキハ嚴格ナル要式證書ニ依リテ支拂ナカリシコトヲ證明シ一定ノ期間內ニ償還ノ通知ヲ發スルニ非サレハ權利ヲ喪失スル結果ヲ生スヘシ第四八七條第三項第四八八條第二項第四九〇條第二項而シテ此拒絶證書ノ作成償還請求ノ通知ノ如キハ手形上ノ權利ヲ保全スルニ必要ニシテ他ノ行爲ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得サルナリ

第五 手形上ノ債權ハ書面ニ依リテ生スルモノナリトノ結果トシテ其權利ハ手形證券ニ依ルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス若シ手形債權者カ之ヲ失フトキハ其權利ハ必スシモ之ヲ失フモノニ非スト雖モ權利喪失ノ結果ヲ來スコトアルヲ免レサルナリ手形債權者カ手形上ノ權利ヲ行使スルニ其手形ヲ要スルコトハ種種ノ場合アルモ殊ニ第四百八十三條第四百九十五條ニ於テ明カニ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ

手形上ノ債權ハ手形ヲ喪失スルニ因リ必スシモ之ヲ喪失スルニ非サレトモ手形ノ喪失ハ事實上頗ル危險ニシテ或ハ權利ヲ行フコト能ハサルニ至ルコトアリ何トナレハ手形ヲ紛失シ又ハ竊取セラレタル場合ニ於テハ拾者竊取者ニ對シテハ手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ若シ其手形カ輾轉シテ善意且ツ過失ナキ第三者ノ占有ニ移リタルトキハ復タ之ヲ取戻スニ由ナク終ニ其權利ヲ行フコトヲ得サルニ至レハナリ(第四四一條蓋シ手形ヲ紛失シテ其所在ヲ知ル能サルトキハ公示催告ノ方法ニ依ル權利保護ノ途ナキニ非スト雖モ然レトモ其目的ハ必ス之ヲ速スルコトヲ得ルモノト謂フヘカラス何トナレハ公示催告ハ善意且ツ過失ナクシテ手形ヲ取得シタル者アリテ其權利ヲ行使スル場合ニ於テハ之ニ對シ何等ノ效果ヲ生セサレハナリ第四四一條第二八一條民事訴訟法第七七一條乃至第七八五條)

右ニ述ヘタルカ如シ手形債務ハ極メテ峻嚴ナル規定ニ依リ存スルモノナルカ故ニ利害關係人ノ爲メ且ツ手形ノ流通上此規定ヲ融和スル特別規定ヲ要ス即チ手形債權ハ他ノ一般ノ商行爲ニ因ル債權ニ比スレハ短期間ニ於テ時効ニ罹ルモノトセリ(第四四三條)舊商法ノ規定ニ依レハ手形債權ノ時効ハ主タル債權

及ロ償還請求權ニ付キ其期間ヲ同一ニシ總テ三年トセリ新商法ニ於テハ之ニ修正ヲ加ヘ主タル債務者ニ對スル場合ト償還義務者ニ對スル場合トヲ區別シ其時効期間ヲ異ニシ主タル債務者ニ對シテハ手形上ノ債權ハ滿期日ヨリ三年ヲ經過スルトキハ消滅スルヲ原則トシ償還義務者ニ對スル債權ハ此權利ヲ行フヘキ者ノ地位ニ依リテ其起算點ヲ異ニスト雖モ時効ノ期間ハ總テ六箇月トセリ即チ所持人カ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書作成ノ日ヨリ起算セテ六箇月裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ六箇月トス斯ク時効ヲ短縮シタル理由ハ手形ノ流通ヲ容易ナラシムル爲メニ外ナラス右ノ外手形時効ノ效力手形義務消滅ノ抗辯ノ方法時効ノ中斷停止不可抗力ニ因ル時効期間ノ延長等ノ如キハ民法ノ規定スル所ニ從ヒ商法ニ於テハ別ニ之ヲ規定セス(第四四三條第一條民法第一四四條乃至第一六一條商法施行法第一二三條)

第三節 手形債務ニ關スル不當ノ利得

賣主ニ目的物ヲ賣渡シタル第三者カ目的物ヲ發送シタルト賣主ノ負擔ニ歸シタル義務ノ履行地カ賣主ノ住所ナルト、營業所ナルト、目的物發送地ナルト、目的物到達地ナルトヲ問ハサルナリ然レトモ非隔地取引ニ於テハ賣主又ハ其代理人カ結約後直チニ目的物ヲ他所ニ運搬スヘキ意思ヲ表示セタル場合ナルト買主ト第三者即チ買主ノ買主トノ約旨ニ基キ目的物ヲ他所ニ運搬スル場合ナルト否トヲ問ハス賣主ヘ目的物ノ別離請求權ヲ有セス蓋シ先ニ述ヘタル如ク買主ノ別離請求權ハ隔地取引ニ於テ缺クヘカラサル制度トシテ認メラレタルニ止マレハナリ(ロ)目的物カ買主ノ破産宣告以前ニ於テ到達地ニ到達セス且ツ破産セタル買主若クハ其代理人ノ占有ニ歸セザリシコトヲ要ス賣主ハ送付中ノ目的物ニ付キ縱令之ヲ處分スルノ權能ナキ場合ト雖モ別離請求權ヲ有ス隨テ送付中ニ於ケル買主ノ目的物ハ占有ハ毫モ別離請求權發生ノ妨ト爲ラス蓋シ目的物カ買主タル債務者ノ占有ニ屬セサル以上ハ其債權者ハ該目的物ヲ擔保脱シタルコトナキヲ以テ債權者ノ權利ヲ害スルコトナキノミナラス破産ニ類スル債務者ハ信用ヲ維持シ破産宣告ヲ免レンカ爲メニ多數ノ取引ヲ爲スヲ通常

ノ状態ト爲スヲ以テ之カ爲メニ買主ニ損失ヲ被ラシムルトキハ取引上ノ信用ヲ害スルコト極メテ大ナレハナリ(ハ)破産者タル買主ヨリ完全ナル辨済ヲ受ケザリシコトヲ要ス蓋シ賣主カ買主ヨリ完全ナル辨済ヲ受ケタル以上ハ賣主ハ隔地取引ニ付キ毫モ損失ヲ被ルコトナケレハナリ辨済ヲ受ケサル原因ノ如何ハ法理上之ヲ問フ所ニ非サルナリ代價支拂ニ付キ期限アル場合ナルト否トノ如キ買主ノ完全ナル辨済受領ハ支拂代物辨済又ハ交互計算等ヨリ生ス而シテ賣主及ヒ買主間ニ於テ永年ノ交互計算關係アルトキハ買主ハ買主ノ破産宣告ヲ受ケタル當時ニ於テ計算上剩餘金アルトキニ限り別離請求權ヲ有ス買主カ買主ノ爲メニ手形ノ引受ヲ爲シタルコト其他辨済ノ擔保ヲ供シタル等ノ如キハ完全ナル辨済ト同視スヘキモノニ非ス買主カ辨済ノ爲メニ手形ヲ振出シテ買主ニ之ヲ交付シタル場合モ亦然リ唯此場合ニ於テハ買主ハ代價カ手形ニ依リ完全ニ支拂ハレタルトキハ破産財團ニ返還スヘキ義務ヲ留保シテ別離請求權ヲ有スルノミ

買主ノ有スル別離請求權ハ買賣契約ヲ解除スルノ效力ヲ有スルモノニ非スニテ賣主ヲ履行以前ノ原状ニ回復シ引渡シタル目的物ノ占有ヲ更ニ得セシムルモノナリ之ヲ換言スレハ賣買ハ依然成立シ唯賣主カ目的物ノ占有ヲ喪失スルニ因リテ受ケタル不利益ノ地位ヲシテ其占有ヲ喪失セサルカ爲メニ有スル利益ノ地位ニ回復スルニ在リ故ニ管財人カ破産財團ノ爲メニ契約ノ履行ヲ求ムル權能ヲ維持スル旨ヲ通法ニ表示シタルトキハ買主ハ別離請求權ヲ行フコト能ハス蓋シ管財人ハ完全ナル辨済ヲ爲スニ於テハ買主ハ毫モ損失ヲ受クルコトナキヲ以テナリ而シテ管財人カ破産財團ノ爲メニ契約ノ履行ヲ求ムル意思表示ヲ爲セタルニモ拘ラス其義務ヲ完済セサルトキハ買主ハ別離請求權ニ附帶シテ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得可シ(獨逸新破産法第一七條)

買主カ有スル別離請求權ノ目的物ハ破産財團ニ屬スルモノニ非ス故ニ管財人ハ之ヲ處分スルノ權限ヲ有セス是ヲ以テ管財人カ到達以前ニ於テ商法第三三五條第六二九條又ハ到達以後ニ於テ(破産宣告以後ニ於ケル目的物ノ到達ハ別離請求權ノ存続ヲ妨ケサルコトハ獨逸ノ「コーレル」氏ノ破産法論ニ依ルモ明白ナリ)目的物ヲ處分シタルトキハ其相手方タル第三者ハ善意ノ場合ニ限り民法

ノ原則ニ從ヒテ權利ヲ取得ス(民法第一九二條第一九五條)而シテ第三者カ其義務タル辨濟ヲ未タ管財人ニ對シテ爲ササルトキハ其辨濟ニ付キ別離請求權ヲ行フコトヲ得蓋シ別離請求權者ト破産債權者團體トノ關係ニ於テハ別離請求權カ物權上ニ行ハルルト債權上ニ行ハルルトノ區別ハ毫モ緊要ナルモノニ非サレハナリ破産者カ破産宣告以後ニ於テ別離請求權ノ目的物ヲ處分シタルトキモ亦同一ニ論決スルコトヲ得ヘシ蓋シ斯ル目的物ハ破産財團ニ屬セスト雖モ破産者ハ別離請求權ノ爲メニ之ヲ處分スルノ權ナキヤ當然ナレハナリ破産者カ破産宣告以前ニ於テ別離請求權ノ目的物ヲ處分シタルトキハ破産者カ目的物上ニ所有權ヲ有シタル場合ナルト否トニ拘ラス別離請求權ヲ善意ノ第三取得者ニ對抗スルコトヲ得ス蓋シ斯ル場合ニ於テハ善意ノ第三取得者ヲ保護スルヲ正當ト爲セハナリ(民法第一九二條第一九五條商法第三三五條第六二九條)

別離請求權ハ(1)ニ買主又ハ其代理人カ買主ノ破産宣告以前ニ於テ目的物ヲ占有シタルトキニ消滅ス(民法第一八〇條乃至第一八七條)運送狀船荷證券ノ

交付ハ毫モ荷受人ノ爲メニ占有ヲ取得スルノ原因ト爲ラス委託者ノ運送取次人ハ荷受人ノ爲メニ占有ヲ取得セス但シ運送狀ノ交付後破産者ノ爲メニ目的物ヲ保管シタル運送人ハ破産者ノ爲メニ占有ヲ取得スルモノトス然レトモ買主カ買主タル破産者ノ破産宣告以前ニ於テ占有ヲ取得シタリニモ拘ラス目的物ニ付キ處分權ヲ有シタルトキ例ヘハ買主タル破産者カ破産宣告以前ニ於テ又管財人カ破産宣告以後ニ於テ目的物ノ缺損ノ爲メニ引取ヲ拒絶シタルトキハ所有權者トシテ別離請求權ヲ有ス(2)ニ管財人カ完全ニ代金ヲ辨濟シタルトキハ消滅ス第二ニ問屋營業者カ買入委託者ニ物品ヲ送付スルトキハ先ニ述ヘタル法理ノ適用トシテ賣主タルノ別離請求權ヲ有ス然レトモ販賣委託者カ買入委託者ヲ債務者トシ問屋營業者ヲ免除シタル場合ニ於テハ買主トシテノ別離請求權ヲ有スルヤ當然ナリ(商法第三一一條以下)獨逸新破産法第四四條第三ニ妻ハ夫ノ財産ニ付キ破産手續カ開始セラレタルトキハ夫ノ占有ニ係ル特有財産ニ付キ別離請求權ヲ有ス何トナレハ妻ノ特有財産ハ夫ノ破産ニ於ケル破産財團ト爲ラサルヲ以テナリ但シ夫婦共謀シテ夫ノ債權者ヲ害スルコトヲ豫

防スルノ目的ヲ以テ法律カ夫婦ノ孰レニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ夫ノ財産ト推定スルカ故ニ別離請求權ヲ行使スル妻ハ婚姻前ニ有スル財産ニ付テハ其旨ヲ又婚姻中自己ノ名ニ於テ得タル財産ニ關シテハ破産者タル夫ノ財産ヲ以テ取得シタルモノニ非サルコト即チ破産者タル夫ノ爲シタル無効又ハ取消シ得ヘキ權利行爲ノ結果トシテ或ハ破産者タル夫ノ財産上ヨリ不當利得シタル財産ニ非サルコトヲ立證セサルヘカラス民法第八〇七條獨逸新破産法第四五條

(ハ) 別離請求權ノ主張 別離請求權ヲ主張セント欲スル者ハ之ヲ裁判上又ハ裁判外ニ於テ破産債權者團體ノ機關タル管財人ニ對シテ主張セサルヘカラス別離請求權ノ裁判上ノ主張即チ訴ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ破産裁判所若クハ不動産ニ關スル場合ニ於テハ不動産ノ所在地ヲ管轄スル裁判所ニ提起セサルヘカラス(第一〇一五條民事訴訟法第一四條第二二條)而シテ此訴ハ原告ニ屬スル物件カ破産財團中ニ存スルトキハ執行訴訟トシテ又法律關係確認ノ利益ノ存スルトキハ確認訴訟トシテ提起スルコトヲ得此訴ニ於ケル申立ハ破産

債權者團體ニ對シ別離請求權ノ目的物ヲ破産財團ヨリ解放スヘキ旨ヲ求ムルニ在リ而シテ該申立ヲ是認シタル判決ハ民事訴訟法ノ規定ニ從テ強制執行ヲ爲スコトヲ得民事訴訟法第七三〇條乃至第七三二條

別離請求權者ハ管財人カ目的物ノ引渡ヲ請求スルカ如キ攻撃方法ニ對シ別離請求權ノ原因タル權利ヲ防禦方法トシテ主張スルコトヲ得ルハ言フ埃タス別離請求權ノ原因タル權利ニ關スル訴訟カ破産手續開始前ニ於テ既ニ裁判所ニ繫屬シタルトキハ民事訴訟法及ヒ破産法ノ規定ニ從ヒ該訴訟ノ中斷及ヒ承繼アルモノトス民事訴訟法第一七九條獨逸新破産法第一〇條獨逸新民事訴訟法第二四〇條

(ニ) 別離請求權ノ喪失 別離請求權ハ破産財團ヨリ之ニ屬セサル財産ノ別離ヲ請求スルヲ目的ト爲スヲ以テ破産手續繼續中ニ於テ破産財團ニ屬セサル財産カ破産財團中ニ存スル場合ニ限リテ主張スルコトヲ得ルモノナリ故ニ(1)破産手續開始以後ニ於テ管財人カ破産財團ニ屬セサル財産即チ別離請求權ノ目的物ヲ換價シタルトキハ別離請求權ノ消滅ヲ來スモノト云ハサルヲ得ス隨テ

換價行為ノ對價タル反對給付カ別離請求權ノ目的物ノ賣得金ノ如キ破産財團中ニ入リタルトキハ別離請求權者ハ不當利得ノ原則ニ基キテ破産財團ノ請求權者トシテ反對給付ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ルノミ然レトモ換價行為ノ對價タル反對給付カ未タ破産財團中ニ入ラザルトキハ別離請求權者ハ對價タル請求權ノ別離及ヒ讓渡ヲ請求スルコトヲ得ヘシ何トナレハ別離請求權ハ實體上破産財團ニ屬スルモノニ非ザルヲ以テ條理上別離請求權者ニ別離及ヒ讓渡ノ請求ヲ許スヲ正當ト爲スヲ以テナリ別離請求權者ハ其原因タル權利ニ因リ第三取得者ニ對シ目的物ノ取戻ヲ主張スルコトヲ得ヘシ蓋シ別離請求權者ハ第三取得者カ民法上ノ原則ニ從ヒ完全ニ權利ヲ取得セザル以上ハ自己ノ權利ヲ對抗スルコトヲ得レハナリ而シテ別離請求權者カ第三取得者ニ對抗シ以テ取戻ノ目的ヲ達シタルトキハ破産財團ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコト能ハザルヘシ何トナレハ別離請求權者ハ於テハ破産財團上ニ不當利得ノ原因存セザレハナリ然レトモ別離請求權者ハ管財人ヨリ換價行為ノ對價タル反對給付ヲ目的トスル債權ヲ讓渡セシメタル場合ニ於テハ第三取得者ニ對シ民法上ノ權利ヲ

行フコト能ハサルヘシ何トナレハ別離請求權者ハ於テハ別離請求權者ハ管財人ノ換價行為ヲ承認シタルモノニ外ナラザレハナリ別離請求權者カ其有スル權利ヲ第三取得者ニ對シ民法上對抗スルコト能ハサルトキハ不當利得ノ原則ニ基キテ破産債權者各箇人ニ對シ破産者ニ屬セザリシ財産ノ賣得金ノ配當ニ依リテ受取リタル配當部分ノ返還ヲ請求シ或ハ破産者ニ對シテ該賣得金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得ヘシ蓋シ破産債權者各箇人ハ法律上ノ原因ナクシテ別離請求權者ノ財産ニ由リテ適法ナル配當以外ノ金額ヲ受ケ又破産者ハ法律上ノ原因ナクシテ別離請求權者ノ財産ニ由リテ債務ヲ免レタルヲ以テ(1)破産宣告以後ニ於テ破産者カ別離請求權ノ目的物ヲ處分セタルトキハ其處分ハ破産財團ニ對シテ無効ナリ(第九八五條)隨テ管財人カ別離請求權者ハ其權利ヲ先目的物ヲ破産財團トシテ取扱ヒタル場合ニ於テハ別離請求權者ハ其權利ヲ先ニ示シタル規則ニ從ヒテ管財人ニ對シテ主張スルコトヲ得ヘシト雖モ管財人カ破産者ノ行為ヲ無効ナリト認定セス爲メニ別離請求權者ハ其權利ヲ先目的トスル權利カ破産財團トシテ取扱ハルル場合ニ於テハ管財人カ別離請求

權ノ目的物ヲ換價シタル場合ト同一ニ取扱フヘキモノナリ破産者カ破産宣告以前ニ於テ別離請求權ノ目的物ヲ處分シ未タ反對給付ヲ受取ラサル場合ニ於テハ別離請求權ハ破産財團中ニ存スル破産者ノ有スル代價其他ノ反對給付ヲ目的トスル請求權ノ別離及ヒ讓渡ヲ請求スルコトヲ得ヘシレ條理上正當觀セラレタル法則ナリ然レトモ破産者カ破産宣告以前ニ反對給付ヲ受取リタルトキハ縱令反對給付カ現存スル場合ト雖モ別離請求權ヲ主張スルコトヲ得ス唯破産債權者トシテ満足ヲ享有スルニ過キヌ獨逸新破産法第四六條第五九條第三號

(二) 別離請求權 箇人的強制執行ニ於テ差押物ノ賣得金ニ付キ差押債權者ヨリ優先的ニ辨済ヲ求ムルコトヲ得ル債權者アルト同シク破産的強制執行ニ於テモ亦破産財團ノ賣得金ニ付テ破産債權者ヨリ優先的ニ辨済ヲ求ムルコトヲ得ル債權者アリ破産財團ニ屬スル財産上ニ物的擔保ヲ有スル債權者ノ如キ即チ是ナリ此優先的辨済ヲ求ムル請求權ヲ別離請求權ト云フ故ニ別離請求權ハ別離請求權ト異ニシテ破産財團ニ屬セサル財産ノ別離ヲ請求スルニ非スシ

テ却テ破産財團ニ屬シ且ツ特定債權者ノ優先的満足ノ用ニ供スヘキ關係ヲ有スル財産ノ賣得金上ニ別離ノ辨済ヲ求ムルモノナリ第九九七條以下獨逸新破産法第四七條以下

(イ) 性質 別離請求權トハ破産財團ニ屬スル財産ノ賣得金ニ付キ破産宣告以前ニ成立シタル財産權ヲ有スル者ノ優先的辨済ヲ求ムル權利ナリ別離請求權ハ獨立的權利ニ非スシテ却テ破産手續以前ニ於テ成立シタル權利ニ依リテ存在スルモノナリ而シテ此別離請求權ノ原因タル權利ハ破産宣告以前ニ於テ成立シタルモノナラサルヘカラス何トナレハ破産宣告以後ニ於テ破産財團ニ屬スル財産上ニ關係ヲ有スル權利ハ破産債權者團體ニ對シテハ有效ニ取得スルコト能ハサレハナリ第九八五條獨逸新破産法第一五條破産財團ニ屬スル財産ノ賣得金ニ付キ破産債權者ヨリ優先シテ満足ヲ享有スルコトヲ得ヘキ債權者ノミカ破産手續ノ開始ニ拘ラス別離ノ辨済ヲ請求スルコトヲ得ヘシ蓋シ破産手續ノ開始ハ既往ニ遡リテ優先的法理關係ヲ破壞スルノ效力ヲ有セサレハナリ

(ロ) 別除請求權ノ主體 別除請求權ヲ有スル者ハ優先權者、相續債權者受遺者及ヒ破産者ト其有關係ヲ有スル權利者ニ外ナラス第一ニ優先權者即チ民法其他ノ法律ニ依リテ定メラレタル(第二八四條第六八〇條第九八七條民法第三〇三條乃至第三九八條明治二十二年法律第九號國稅徵收法第一四條第一五條第一六條等)獨逸新破産第四八條第四九條英破産第四〇條佛商第五四六條乃至第五五六條等)質權抵當權等ノ如キ債務者ノ財産ノ賣得金ニ付キ優先的辨濟ヲ求ムル權利ヲ有スル者ハ其擔保物ノ賣得金ヨリ費用利息及ヒ元金ノ完済ノ受クル爲メニ別除ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得第九九七條民法第四九一條優先權者カ別除請求權ヲ有スル理由ハ蓋シ破産宣告アルカ爲メニ優先權殊ニ物權的法律關係ノ效力ヲ害スルコトアレハ優先權ヲ設ケタル法意ニ反ス是ヲ以テ破産的強制執行ハ優先權ニ何等ノ影響ヲ及ホサス唯優先權ノ效力ヲ侵害セサル範圍内ニ於テノミ行ハルト云ハサルヘカラス隨テ優先權者ハ破産宣告ノ存セサル場合ニ於ケルト同シ民法及ヒ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ其權利ヲ實行スルコトヲ得破産債權者ハ唯殘都ニ對シテ破産的關係ヲ有スルノミ故ニ事實上優先

權ノ存在ヲ尊重スルコトナクシテ其目的物カ破産的差押ニ係リタルトキハ優先權者ハ別除請求權者トシテ優先權ノ目的物カ自己ノ權利ヲ侵害セサル範圍内ニ於テ破産的差押ノ目的物タルヘキモノナリト主張スルコトヲ得サルヘカラサルヲ以テナリ

優先權者ハ破産財團ヨリ辨濟ヲ受ケタルトキハ(第九九七條第一〇四五條)別除ノ請求ヲ爲スコト能ハス何トナレハ之ニ依リテ別除請求權ノ原因タル權利カ消滅スルヲ以テナリ又優先權者ハ賣得金ノ剩餘ヲ取得スルコトヲ得ス何トナレハ該剩餘ハ破産財團ノ一部分ニ外ナラサレハナリ商法第九百九十七條末段ニ於テ買主之ヲ財團ニ拂込ムヘシト規定セタルハ蓋シ優先權者ハ賣得金ニ付キ費用利息及ヒ元金ノ支拂ヲ受クル權アルニ止マルヲ以テ買主ハ直接ニ相當金額ヲ優先權者ニ支拂ヒ其剩餘ハ破産財團ニ屬スルモノナレハ之ヲ財團ニ拂込ムヘキモノトシテ二重支拂ヲ爲スノ恐アルコトヲ注意シタルモノナルヘシ然レトモ民事訴訟法及ヒ競賣法ニ依レハ買主ハ執行期間ニ代金ノ支拂ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ此法律ニ依レル賣却ノ場合ハ同條末段ノ適用ヲ見ス唯任

意買賣ノ場合ニノミ必要ナリトス故ニ立法上ノ見解トシテハ同條ハ全然無用ナリト云フヘシ(第一〇一八條)優先權者ハ其擔保物ノ賣得金ヨリ完全ナル辨濟ヲ受タルトキハ其未済債權額ニ付キ破産債權者トシテ届出ツルコトヲ得ヘシ蓋シ前述ノ如ク別除請求權ニ依リ擔保セテレタル債權ハ破産者其者ニ對スル破産債權ニ外ナラス(第九九條)獨逸新破産法第六四條又優先權ノ順位ハ民法及ヒ特別法ノ定ムル所ナルヤ言フ埃タス(第九九八條)第二ニ相續債權者及ヒ受遺者ハ特定物ノ所有權ヲ取得シタル受遺者ハ別除請求權ヲ有スルモ別除請求權ヲ有セス隨テ茲ニ所謂受遺者ハ相續財產ニ於ケル給付ヲ目的トシタル債權ヲ取得シタル者ト解ヒサルヘカラス(破産者タル相續人ノ承繼シタル相續財產ニ付テ別除請求權ヲ有ス債務者其人ノ事實上ノ變更ニ因リ債權者ノ意思ニ關係ナク之ヲ不利益ナル地位ニ陥ルコトハ法理ノ許ササル所ナリ故ニ法律ハ相續人ニ不利益ナル相續ノ限定承認ヲ爲スコトヲ認メタルト同シク民法第一〇二五條)相續債權者及ヒ受遺者ニ相續人固有ノ債務多ク爲メニ相續人ノ債權者ト相續財產上ニ競合スルニ由リ生スルコトアルヘキ不利益ヲ避クル方法トシテ相

續ノ開始セタル場合ニ相續財產ノ別除請求權ヲ認メ又破産シタル場合ニ相續財產上ノ別除請求權ヲ認メタリ(第一〇〇〇條)民法第一〇四一條佛民法第八七八條第二一條獨逸破産法第四三條但シ獨逸新破産法ハ之ニ關スル規定ヲ設ケニ立法上ノ理由相續債權者及ヒ受遺者カ相續人ノ財產ニ付キ破産手續ノ開始アリタル場合ニ於テ相續財產ニ付キ別除請求權ヲ主張スルニハ第一ニ破産者タル債務者カ破産手續終局マラニ於テ單純承認ニ因リ相續財產ヲ取得シタルコトヲ要ス相續人カ限定承認ヲ爲シタル場合ニ於テ相續財產カ各相續債務ヲ完済スルニ充分ナルトキハ相續債權者及ヒ受遺者ハ相續人ノ債權者ト競合スルコトナク相續財產上ニ完全ナル満足ヲ享有スルコトヲ得民法第一〇三一一條乃至第一〇三三條(相續人若クハ相續人ノ破産宣告ヲ受ケタル管財人ハ財產目録ヲ調製シ相續財產ヲ相續人固有ノ財產ヨリ別除スルコトヲ得ルヤ當然ナリ)又相續財產カ各相續債務ヲ完済スルニ充分ナルトキハ理論上該財產ニ付キ破産手續ヲ開始シ各相續債權者及ヒ受遺者ニ平等の満足ヲ得セシムルヲ正當トシ相續人ノ債權者カ該破産手續ニ加入セサルヲ當然トス(獨逸新破産法第二一四條)限

定承認ノ相續人ノ財産ニ付キ破産手續カ開始セラレタルトキニ於テハ該破産ノ相續財産ニ關スル破産トノ併行ヲ見ルハ當然ナリ故ニ限定承認ノ相續ニ關シテハ相續財産ノ分離請求權及ヒ別除請求權ノ實用ナキヤ言フ埃タス相續人カ單純承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ其效果トシテ相續財産ハ相續人ノ財産ト混同シ相續債權者及ヒ相續人ノ債權者ノ區別モ亦存セザルニ至ルヲ以テ民法第一〇二三條此二者ハ互ニ相續人ノ財産上ニ債權ノ完済ヲ享有スルカ爲メニ競合セザルヲ得ザルニ至ル此關係ハ相續財産カ各相續債權者ノ債權ヲ完済スルニ充分ニシテ且ツ相續人カ其固有ノ財産ヨリ多額ノ債務ヲ負ヒタル場合若クハ相續人カ相續財産額ヨリ多額ノ債務ヲ負ヒタル場合ニ於テ相續債權者ニ損害ヲ被ラシムルモノナリ蓋シ相續債權者ハ相續開始ナキ場合ニ於テ完全ナル辨済若クハ比較的多額ノ辨済ヲ受領スルコトヲ得ヘキニ拘ラス相續ノ開始アリタルカ爲メニ斯ル辨済ヲ受領スルコト能ハス又相續人ノ財産上ニ破産手續カ開始シタルトキニ當リテ相續人ノ債權者ト共ニ該財産ニ付キ配當額ヲ受クルニ至ルヲ以テナリ此ノ如ク相續債權者ニ對シ不利益ヲ被ラシムルハ條

第三項 資本ノ内容

資本ヲフ觀念中ニ包含セラルヘキ貨物ノ種類左ノ如シ

- 一、土地改良 堤防排水路等ノ如キモノ
- 二、各種ノ生産的建築物 仕事場工場鐵道等
- 三、道具器械其他ノ生産的器具
- 四、生産ノ用ニ供セラルル畜類
- 五、生産ノ原料及ヒ補助原料
- 六、生産者及ヒ商人ノ貯藏スル成功品
- 七、貨幣

一號ヨリ五號マテハ何人モ異論ナカルヘシト雖モ六號七號ニ付テハ多少疑ヲ抱ク者アルヘキヲ以テ爰ニ數言ヲ費スノ必要アリ
商人ノ倉庫中ニ藏スル消費貨物ハ最早成功貨物ト稱スヘキモノニシテ中間ノ生産物即チ資本ニ屬セザルモノナルカ如シ又貨幣ハ交換ノ道具ニシテ生産ノ

道具ニアラサルカ如シト雖モ精密ニ考察スルトキハ二者共ニ資本中ニ算入スヘキモノナリ何トキレハ凡テ貨物ハ最後ノ消費者ノ手ニ歸スルニアラサレハ生産手續ヲ完了シタルモノト云フヘカラス然ルニ生産者若クハ商人ノ貯藏スル成功品ハ生産手續ノ半途ニ在ルモノナルカ故ニ中間生産物即チ資本ニ外ナラザルナリ又交換ト稱スル行爲ハ生産ニ著手シタル時ヨリ生産物カ最後ノ消費者ノ手ニ達スルマテノ一ノ階段ニ過キス換言スレハ生産の活動ニ外ナラザルナリ而シテ貨幣ハ此ノ如ク交換ト稱スル生産の活動ヲ爲スノ要具ナルカ故ニ當然資本ヲフ觀念中ニ包含セラルヘキモノナリ

又他ノ方面ヨリ觀レハ貨物ハ必スシモ之ヲ消費スル地方ニテ生産セラルルモノニアラス一層都合ヨキ外圍事情ヲ利用センカ爲メニ他所ニ於テ生産セラルル場合少カラス而シテ此時ニ當リテハ生産カ技術のニ終了シタル後其生産物ヲ消費スル場所マテ運搬スルコトヲ要スルモノナリ而シテ此運搬終了スルニアラサレハ生産手續ハ完了シタルト云フコトヲ得サルナリ而シテ此他所ニテ生産スルハ迂回の生産法ノ一種ニ外ナラス此種ノ迂回の生産法ハ孤立經濟ニ於テ

モ狹隘ナル範圍内ニ於テ實行セラルル場合少カラス例ヘハ農夫ハ佳良ナル生産ノ條件ヲ利用センカ爲メニ半里程ノ耕地ニ穀物ヲ栽培シ又數里程ノ距離ニアル山野ニ樹木ヲ植付ケ其收穫物若クハ伐リ倒シタル樹木ヲ造ニ隔リタル自己ノ住家ニ引キ入ルルコトハ常ニ吾人ノ目撃スル所ナリ之ト同一ノ理由ニヨリ分業組織ノ實行セラルル産業社會ニ於テハ吾人ハ自己ノ欲スル貨物ヲ他人ノ工場他所他國又ハ他ノ大陸ヨリ取得スルハ極メテ普通ノコトナリ而シテ此場合ニ於テモ前ノ孤立經濟ニ於ケル他所生産ノ場合ト同様ニ生産手續ヲ完了スルニハ運搬ノ裝置アルヲ必要トス農夫カ穀物又ハ樹木ヲ運ヒ入ルルニ當リテ之ヲ助ケル馬及ヒ車ヲ生産ノ用具即チ資本ノ中ニ算入セハ大規模ノ國民的收穫ノ裝置タル道路鐵道船舶及ヒ商業的道具タル貨幣モ亦資本トシテ算入セザルヘカラス生産者ニ與フル分業組織ヨリ起ル商業的迂回法ノ利益ハ決シテ他ノ技術的迂回法ノ與フル所ニ讓ルモノニアラス外國貿易ヨリ生スル利益ハ最モ有名ナル技術的發明例ヘハ蒸氣機械ノ使用ノ如キ資本的生產法ノ與フル利益ニ勝ルコトアルモ決シテ劣ルモノニアラス

資本ノ觀念ニ付テ異ナリタル意見ヲ有スル者ニシテ前ニ擧ケタル七種ノ貨物
ノ外ニ土地、長期間ノ使用ニ堪フル消費貨物、労働者ノ身體等ヲモ資本中ニ包括
セント欲スル者アルハ怪ムニ足ラスト雖モ資本ノ觀念ニ關シテ同一ノ意見ヲ
有スル人ニシテ其内容ニ付テ意見ヲ異ニスル者アルハ頗ル怪訝ニ堪ヘサル
ナリ即チ昔ノ英國ノ經濟學ヨリ降テ *Adolf Wagner* 氏ニ至ルマテ前ニ擧ケタル
七種ノ貨物ノ外労働者ノ生活維持ノ資料 (*The maintenance of productive laborers*)
資本中ニ算入スルカ如キ是ナリ

労働者ニ賃金トシテ支拂ヒタル金銀若クハ労働者ノ實際ノ賃金、食物、衣服、薪
炭、點火ノ資料ハ彼等ニ前渡シタル企業者ヨリ觀レハ其私有資本ニ相違ナシト
雖モ資本ヲ生産ノ用ニ供スル生産物換言スレハ生産ノ手段タル貨物ノ總體ナ
リト定義スルトキハ労働者ノ生活維持ノ資料ハ資本ノ觀念中ニ算入スヘキモ
ノニアラス生産ノ手段ナル觀念ハ消費ノ手段ナル觀念ト相對立スルモノニシ
テ混同スヘキモノニアラス労働者ノ生活支持ノ資料ハ彼等ノ欲望ヲ満足スル
直接ノ手段ナリ労働者ハ人類ニシテ社會ノ一部ヲ爲ス者ナリ隨テ労働者ノ

生活支持ノ資料ハ社會ノ欲望ヲ直接ニ充タスノ資料即チ消費ノ手段タルモノニ
シテ生活ノ手段即チ資本ト稱スヘキモノニアラス若シモ労働者ハ商工業ノ經
營ニ因リテ利益ヲ受クヘキ社會ノ一員ニアラスシテ労働ヲ爲ス物質的器械ナ
リト看做サルルトキハ労働者ノ生活支持ノ資料ハ役畜ノ食物、火爐ノ燃料ト同
種類ニ屬スルモノニシテ生産ノ方便即チ資本タルヘキモノナリ論者咸ハ曰ク
生産的労働者ハ單ニ消費者ニアラスシテ同時ニ生産的道具ナリ隨テ彼等ノ生
活支持ノ資料ハ間接ニ貨物生産ノ用ヲ爲スモノナリト然レトモ生産ノ手段及
ヒ消費ノ手段ナル區別ハ唯貨物ノ直接ノ運命ニ付テノミ立ツルコトヲ得ヘキ
モノナリ間接ノ結果ヨリ云フトキハ生産ノ手段モ亦間接ニ人ノ欲望ヲ充タス
モノナルカ故ニ間接ノ結果如何ハ區別ノ標準トシテ取ルヘキモノニアラサル
ナリ労働者ノ消費スル食物ハ社會ノ組合員ノ欲望ヲ直接ニ充タスノ用ヲ爲ス
モノナルカ故ニ消費ノ手段ニシテ生産ノ方便ニアラサルナリ

第四項 資本ノ種類

第一 固定資本及ヒ流動資本

此區別ハ生産ニ使用スルコトヲ得ヘキ度數ヲ基礎トシテ立テタルモノナリ
固定資本トハ一度生産ニ使用スルニ因リテ其性質ヲ變スルコトナク數回同様
ノ生産ニ使用シ得ヘキモノヲ云ヒ

流動資本トハ一度生産ニ使用スルニ因リテ全ク其性質ヲ變シ再ヒ同様ノ生産
ニ使用スルコトヲ得サルモノヲ云フ

例ヘハ紡績用ノ錠運河工場用ノ蒸氣機械ノ如キハ固定資本ナリ、播付ケタル種
子耕地ニ施シタル肥料紡績糸ノ原料タル棉花ノ如キハ流動資本ナリ

固定資本ノ増殖ハ永遠ニ幸福ヲ増進シ生産ヲ増加スルモノナリ之ニ反シテ固
定資本ノ減少ハ永遠ニ生産ヲ減縮スルモノニシテ社會衰微ノ徵候ナリ然レト
モ固定資本ノミ獨リ増加シ之ニ應シテ流動資本ノ増加ナキトキハ固定資本ノ
一部ハ利用セラレサルコトト爲ルヘキカ故ニ兩者ノ間ニ權衡ヲ失スルハ不可
ナリ

固定資本ノ増加ハ大ニ望マシキコトナレトモ之カ成立ヲ困難ナラシムル原因

種種アリ今其二三ヲ列舉スレハ左ノ如シ

(一)永續スル性質ヲ有スル資本ヲ作ルニハ多量ノ勞力ヲ要ス 而シテ保護期間
延長スルトキハ之ヲ作ルノ勞力モ亦増加スルヲ通常トス

(二)人ノ將來ヲ慮リ將來ヲ信スル能力ニ一定ノ限界アリ 固定資本ヲ作ルニハ
現在ニ於テ勞力其他ノ出費ヲ爲スコトヲ要ス而シテ其報酬ハ固定資本成立シ
テ使用スルニ因リテ勞力ヲ節減シ又ハ勞力ノ效果ヲ増加スルコトニ因リテ
之ヲ收ムルコトヲ得ヘシ然レトモ勞力其他ノ出費ハ現在ニ要スル犠牲ニシテ
勞力ノ節減、勞力ノ效果ノ増加ニ因リテ生スル利益ハ將來ニ至リテ始メテ收ム
ルコトヲ得ヘキモノナリ而シテ資本ノ保護スル期間長キトキハ報酬ノ全部ヲ
取得スルコトヲ得ル時期モ亦益々遠シト云ハサルヲ得ス夫レ故ニ固定資本ノ作
成ニ要スル現在ノ犠牲ト之ヨリ生スル將來ノ利益トヲ比較スルニハ大ニ先見
ノ明ト將來ヲ慮ルノ力アルヲ要スルモノナリ是レ文明進歩ノ程度低キ時代ニ
固定資本ノ増加セカリシ理由ノ一ナリ

(三)固定資本ノ保護期間長キニ過クルトキハ無用物ト爲ルノ虞アリ 例ヘハ險

阻ナル山間ノ道路ハ墜道ノ新設ノ爲メニ無用物ト爲ルカ如キ是ナリ故ニ此ノ如キ保續期間長キ固定資本ヲ作ルコトハ大人ヲシテ躊躇セシムルモノナリ何トナレハ人生ノ幸福ニ何等ノ關係ナキ資本ノ物質的永續ハ之ヲ豫見スルニ難カラスト雖モ效用ノ永續ハ主トシテ將來ノ人智ノ發達社會ノ變遷ニ因リテ左右セララルルモノナルカ故ニ之ヲ洞察スルコト頗ル困難ナレハナリ

第二 自用資本ト他用資本

此區別ハ資本ヲ使用スル人ト其所有主ト同一ナルヤ否ヤニ基キテ立テタルモノナリ

自用資本トハ資本ヲ所有スル者カ自ラ生産ニ從事シテ使用スル資本ヲ云ヒ他用資本トハ自ラ使用セスシテ他人ニ貸與シテ使用セシムルモノヲ云フ
資本ト有スル者ハ總テ資本家ナレトモ從來經濟學者ハ自ラ勞動セス其所有ノ資本ヲ他人ニ貸與シ之ヨリ生スル一定ノ歳入ヲ收メテ生計ヲ立ツル者ニ限リ之ヲ資本家ト稱シタリ

ト合同手数料トハ同一ノ事件全體ニ通シテ簡便ノ公務ノ多少ヲ問ハス總括シテ徵收スルモノヲ謂フ

第四 一般手数料及ヒ特別手数料

一般手数料トハ一般行政官廳ニ通シテ徵收セラルル手数料ヲ謂ヒ特別手数料トハ或官衙ノミニ付テ特別ニ徵收セラルル手数料ヲ謂フ

第五 直接徵收手数料及ヒ間接徵收手数料

直接徵收手数料トハ公務執行ノ官吏又ハ手数料徵收ノ官吏カ直接ニ報償ヲ徵收スル手数料ニシテ間接徵收手数料トハ證券印紙其他ノ方法ニ依リ間接ニ報償ヲ徵收スル手数料ナリ故ニ此區別ハ主トシテ手数料ノ徵收方法ノ異同ニ依ルモノナリ直接徵收手数料ハ古代廣シ行ハレタル方法ニシテ手数料徵收ノ確實ニシテ簡便ノ場合ニ適合セシムルノ便アルモ之カ費用手数料大ナルヲ以テ現時ハ巨額ノ報償ニ付キ時ニ用ヒラルルニ過キササルナリ間接徵收手数料即チ證券印紙ノ制ハ國家收入ノ増加ヲ目的トシテ行ハレシモノニシテ千六百二十六年和蘭ニ於テ行ハレシ以來各國相次テ此方法ヲ採用シ延テ一般收入ノ場合ニ

適用セラレルニ至リシコトハ前節ニ於テ述ヘタル所ノ如シ此方法ハ手数料額ノ計算簡單ナル場合ニ適シ政府ハ單ニ切手ノ製造及ヒ賣下ヲ爲スニ止マルヲ以テ經費ト手數トヲ節減シ會計ノ整理ニ便ナリトス但シ印紙證券ノ偽造變造再貼用等ノ防遏監督ニ注意ヲ要スヘキコト論ヲ埃タヌ明治二十三年十一月勅令印紙賣捌規則參照)

第二款 體ニ依ル手数料ノ分類

體ニ依ル手数料ノ分類トハ手数料ノ反對給付タル國家又ハ公共團體ノ行動ノ實體ニ依ル手数料ノ分類ナリ之ヲ大別シテ司法手数料及ヒ行政手数料ノ二ト爲ス

第一 司法手数料

司法手数料ハ手数料中最モ早ク發達シタルモノニシテ其沿革ノ古キコトハ前ニ一言セル所ノ如シ近時司法行政ノ費用著シク増加シ手数料ハ單ニ一方ニ於テハ健訟ノ弊ヲ助長セス一方ニ於テハ救濟手段ノ途ヲ杜絶セサル範圍内ニ於

テ實費ニ對シテ遙ニ低下スルヲ常ト爲スニ至レリ

司法手数料ハ再分シテ訴訟手数料及ヒ非訟手数料ノ二ト爲ス訴訟手数料ハ又司法裁判手数料ト行政裁判手数料トニ分レ司法裁判手数料ハ又更ニ民事刑事ノ二者ニ細分セラル訴訟ノ手数料ハ高額ニ失スルトキハ下級人民カ救濟ノ途ヲ杜絶スルモノナレトモ其額ニシテ當ヲ得ハ特別ノ利害關係ヲ有スル當事者ニ對シテ之カ支拂ヲ爲サシムルコトハ條理ニ反セサルノミナラス傍ヲ健訟ノ弊ヲ防クコトヲ得ヘシ殊ニ刑事裁判ノ如キ一般ノ人民ハ犯罪者ノ裁判費用ヲ分擔スルノ必要ヲ見サルノミナラス進ンテハ自由刑ノ刑罰ヲ設ケタル犯罪ヲシテ其監獄ニ於テ要スル費用ノ如キモ之カ實費ヲ支拂ハシムルコト必スシモ不當ナリトセス唯事實ニ於テハ常ニ無實力者タルヲ例ト爲スヲ以テ刑事ノ訴訟手数料ハ常ニ收入少キノミナラス財產刑モ自由刑ニ換刑セラレテ却テ一般人民ノ負擔ヲ増スニ至ルハ各國ノ例トスル所ナリ

非訟手数料トハ國家カ司法行政ノ一部トシテ私人ノ權利ノ發生移轉消滅等法律行為ノ保證ニ對シ之カ關係人ヨリ徵收スル手数料ナリ此種ノ料額ハ其事件

ノ性質大小其他關係人ノ資力ノ多寡等ニ關聯シテ時ニ實費ヲ超過スルコト多ク又形式ニ於テモ租稅ニ變形スル場合アルコトハ屢ニ一言セル所ナリ

第二 行政手數料

行政手數料ハ又賤レテ內務行政軍務行政財務行政及ヒ外務行政ニ關スル四種ノ手數料ニ細別スルコトヲ得ヘシ然レトモ茲ニハ其重要ナル內務行政手數料ノ一部ノミヲ畧述シ其他ノ行政手數料ニ至リテハ財政上自體輕易ナルモノニ屬スルヲ以テ之ヲ省畧スヘシ

(甲) 衛生及ヒ教育行政上ノ手數料 衛生上ノ手數料ハ多ク古代ノ警察上ノ手數料ニ相關聯スルモノニシテ近時衛生上ノ手數料ハ公共ノ利害關係大ナルヲ以テ漸次其跡ヲ絶ツニ至レリ

教育上ノ手數料トハ授業料受験料學位證書等ノ手數料入退學ニ關スル手數料博物館美術館等ノ手數料ヲ包含ス其最重要ナルモノハ小學教育ニ於ケル授業料ナリ近時歐洲各國ニ於テハ小學教育ニ付キ漸次其料額ヲ減少スルノミナラス極端ナルモノハ一方ニ於テ學齡兒童ニ對シ小學校ノ就學ヲ強制スルト共

ニ漸次無月謝主義ヲ漸行スルモノアリ

(乙) 經濟上ノ手數料 經濟上ノ手數料トハ度量衡ノ檢證貴金屬ノ證認食品ノ檢査蠶種ノ檢査海員ノ雇入工場製造場等ノ檢査土地臺帳ノ謄本等監督並ニ保證ニ關スル手數料狩獵ノ免許鑛山砂礦等ノ採掘ノ特許或特定ノ法人ノ企圖ニ關スル特許等免許及ヒ特許ニ關スル手數料等廣ク經濟上ノ手數料ヲ包含ス

第二章 租 稅

第一節 租稅ノ觀念

國家ノ課稅權及ヒ人民ノ納稅義務ハ國家其モノニ對スル觀念ニ依リテ相消長ス租稅ノ歴史ハ專制課稅時代ニ始マリ契約課稅時代ヲ經テ今日ノ國民義務的課稅時代ニ變遷セリ古代強者カ弱者ニ對スル實力關係ヲ以テ成立セル專制國ノ下ニ在リテハ主權者ハ人民ノ身體財產ニ對シ絕對ノ權力ヲ有シ任意ノ方法ヲ以テ人民ヨリ貸財ヲ徵收シ其賦課ノ標準稅額ノ輕重等ハ總テ唯當局者ノ德義心ト智能トヲ待ツノ外ナカリシハ希臘羅馬其他東洋諸國ニ於テ見ル所ナリ

契約課稅時代ニ在リテハ私有財産制度ノ發達人權思想ノ隆興ト共ニ自由獨立ノ人民ハ國家ニ對シテ納稅ノ義務ヲ負擔スルモノニ非スト爲シ一方ニ於テハ在來ノ租稅ノ負擔者タル奴隸又ハ從屬國ノ人民ハ次第ニ其地位ヲ變シ當時ノ主權者ノ收入ハ主トシテ敵國ヨリ獲得スル掠奪品官有財産ノ收入及ヒ君主ノ特權ニ基テ收入ニ依リ所謂絕對無償ノ徵收ハ君主ト雖モ之ヲ敢テスルコト能ハス今日ノ地租ハ或ハ小作料或ハ戶料等ト同一ノ思想ニ因リテ徵收セラレタレバ封建時代ニ於テ見ル所ナリ隨テ國務ノ増加ト共ニ君主ハ一方ニ於テ益收入ノ不足ヲ告ケ君主ハ常ニ貴族又ハ諸侯ヨリ新租稅ノ賦課徵收ノ認諾ヲ求メ爲メニ歐洲ニ於ケル所謂租稅承認權ナルモノノ權與ヲ爲スニ至レリ其後國民ノ納稅義務國家ノ課稅權ハ國家ノ觀念ノ發達ニ伴ヒテ理論ニ實際ニ公認セラレ曩ニ租稅ノ承諾權ヲ有シタル國民議會ハ契約ニ因リテ簡簡ノ場合ニ於テ國民ノ支出ヲ承諾スルニ非スシテ國家カ其生存發達上必要ナル經費ノ種類及ヒ費額ヲ審議シ之ニ應スルノ租稅ニ協贊スルノ意義明カナルニ至レリ所謂國民義務的課稅時代ト稱スルモノ是ナリ

以上述フルカ如ク租稅其モノハ時ト處トニ因リテ幾多ノ變遷ヲ示セルカ故ニ之カ意義ニ對スル學說モ亦紛紛トシテ一致スル所ナシ專制課稅時代ニ在リテハ租稅徵收ノ權利ハ勝者ト敗者トノ關係ニ存ス殊ニ東西兩洋ヲ通シテ討伐征畧ノ盛ニ行ハレタル諸國ニ於テハ租稅ハ戰勝者ノ戰敗者ニ對スル當然ノ權利トシテ認メラレタリ然レトモ討伐征畧ノ歴史少キ獨逸英吉利佛蘭西等ニ於テハ地租ノ如キハ他ノ租稅ニ後レテ發生シ今日ニ至ルマテ地租ノ稅率ハ他ノ租稅ニ比シテ比較的輕キ所以ノモノハ一ニ其手數料ニ對スル觀念ト相違キニ原因セリ故ニ此等ノ諸國又ハ討伐征畧ヲ主義トスル國ニ於テモ其在來ノ自國民ニ對スル關係ニ於テハ固ヨリ任意ノ強制ヲ許ササルカ故ニ國家思想ノ幼稚ナル當時ニ在リテハ手數料其他報償ノ名義ニ其形式ヲ變スルヲ常ト爲シタリ即チ絕對ナル無償ノ徵收方法ヲ執ルコト能ハスシテ多クハ國家カ直接ニ且ツ有形ナル行動ヲ爲シ其報酬トシテ人民ヨリ納稅セシムル迂遠ノ方法ヲ執リタリ今租稅ノ重ナル地租ヲ以テ我カ國古代ノ沿革ニ徵スレハ大化ノ新政以後所謂班田ノ制ヲ設ケ國家ハ口分田トシテ庶人以上六歲ニ至レハ男子二段女子一

段百二十歩ノ土地ヲ供與シ之カ賣買讓與及ヒ相續等ヲ禁シ一段ニ二束二把ノ租稅ヲ徵收シタリ故ニ當時ノ地租ナルモノハ其實一種ノ小作料ニ外ナラス然ルニ其後土地ニ對スル國家ノ所有權ハ漸次貴族僧侶大地主等ノ手ニ事實ニ於テ移轉スルニ至リ政府ノ財產ノ削減セラルルニ伴フテ其收入著シク減少シ一方ニ於ケル私權ノ發達ハ同時ニ一方ニ於ケル無償ノ徵收方法ノ必要ト相關聯シテ契約的課稅時代ヲ生スルニ至レリ

所謂契約課稅說ノ最モ盛ニ行ハレタルハ第十七八世紀即チ人權主義最モ盛ナル時代ニ在リ人民ハ經濟上ノ利益其他ノ欲望ヲ満足セシムルカ爲メ國家ヲ構成スルモノナリトスル民約說ノ思想ハ租稅ヲ以テ單ニ國家ノ勤勞ニ對シ支拂ハルル報酬ナリトノ觀念ヲ起サシメ人民ハ公權ニ依リテ安寧ヲ保護セラルルカ故ニ之カ對價トシテ租稅ヲ支拂フヘキモノナリト思慮シタリ「モンテスキュー」カ租稅トハ人民カ各自其財產ヲ安全ニ享有スルカ爲メ國家ニ供用スル財產ノ一部ナリト云ヒ佛國ノ國民議會ハ租稅トハ國民總體ノ共同負債ニシテ社會カ彼等ニ供與スル處ノ利益ノ對價ニ外ナラスト議決セルカ如キ皆此主義ニ基ケ

モノノニシテ「ブルドホン」カ租稅ハ國家カ勤勞ヲ供シ國民ハ之ニ換ヘテ貨幣ヲ支拂フ所ノ一種ノ交換ナリト云ヘルハ契約課稅主義ノ理想ヲ表示セルモノナリ

此等極端ナル利益交換說ハ其後漸次進化シテ「ルワイヤ」氏ノ如キハ租稅ハ社會生活ノ下ニ於テ人民カ過去現在及ヒ將來ニ於テ受クル利益又ハ前代カ後世ノ爲メニ消費シタルモノノ報償トシテ努力又ハ貨物ヲ以テ支拂フ一國生産物ノ一部ナリト云ヘリ其後コツナ氏ノ如キハ利益交換說ニ國民義務說ヲ加味シ租稅トハ富ノ一部分ニシテ國家其他ノ公共團體カ納稅者全體ノ利益ヲ圖ランカ爲メ必要ナル費用ニ供スルカ爲メニ徵收スルモノナリト云ヘリ利益交換說ハ政治上或ハ專制的ノ賦課徵收ニ對スル牽制ト爲リ社會ノ福利安寧ヲ増進スルノ刺激ト爲ル利益アレトモ理論ノ根底タルヘキ民約論カ一片ノ空想ニ止マルノミナラス所謂交換セラルヘキ國家ノ功勞ハ決シテ之カ價格ヲ計量スヘカラサルモノナルコトハ財政ノ性質トシテ既ニ總論ニ於テ一言セル所ナリ一步ヲ譲リテ之カ利益ハ數理ノ上ニ於テ算定スルコトヲ得ヘシト爲スモ之ヲ各個人

民ノ享有スル程度ニ應シテ分配スルコトハ事實不能ニ屬スルモノナリ尙ホ一歩ヲ譲リテ各個人ノ享有スル利益ハ正確ニ之ヲ分配スルコトヲ得ヘシト爲スモ事實ニ於テハ國民カ納付スル租稅ノ額ハ其享有スル利益ノ大小ニ比例スルモノニ非ス例ヘハ養育院ノ保護ヲ受クル貧民ハ利益ヲ受クルコト大ナルニ拘ラス毫モ納稅ノ義務ヲ負擔セサルカ如シ

契約課稅時代ニ在リテハ利益交換說ノ外向ホ租稅ヲ以テ一種ノ保險料ト解釋スル說行ハレタリ「ミラボー」租稅ハ社會ノ秩序ニ對シテ保護ヲ得ンカ爲メニ供スル所ノ前金ナリト云ヘルカ如キ即チ公安ニ對スル保險料說ナリ此說ハ又政府ノ功勞ヲ以テ總テ公安ノ維持ニ限定スルノ嫌アルノミナラス國民カ公安ノ維持ニ依リテ保護ノ利益ヲ受クル生命財產ノ價格ノ算定シ難ク又其納稅ノ負擔カ其生命財產ノ價格ニ比例セサルコト利益交換說ノ場合ニ異ナラス殊ニ公安其モノカ破レタルトキハ當ニ之カ保險ヲ爲ササルノミナラス却テ租稅其他ノ負擔ヲ増加スヘキモノニシテ理論上何等ノ根據ヲモ有セサルモノナリ近時國家ノ觀念發達シ所謂國民經濟的課稅時代ニ遷ルヤ租稅ナルモノハ國家

其モノカ生存上必要ナル經費ヲ支辨スルカ爲メ徵收スルモノタルコト一般ノ公認スル所ト爲レリ但シ國民義務說ニモ國家ノ本質ニ付テ論スルコトナク單ニ國民ノ國家ニ對スル義務トシテ説明スル者アリ「ロッシェル」氏ノ租稅トハ各個人經濟者カ國家其他ノ公共團體ニ從屬セル結果トシテ其財政上ノ必需ヲ充サンカ爲メニ支拂ハサルヘカラサル收納物ナリト云ヘルカ如キ是ナリ國家ノ本質ニ論究スル者ハ租稅其モノニ對シ又之カ支出ノ目的ヲ加フル者アリ「メニエー」カ租稅トハ行政費及ヒ國家ノ資本ヲ改進スル一般ノ費用ナリト云ヘルカ如キ是ナリ又或ハ財政上ノ收入以外ニ別ニ徵收ノ目的ヲ加味スル者アリ近時「グネル」等社會政策主義ヲ保持スル學派カ租稅ノ徵收ハ財政上收入ヲ得ルノ外同時ニ社會ニ於ケル富ノ調和ヲ目的トスル強制的分配ナリト云ヘルハ既ニ上述セル所ナリ蓋シ租稅ノ定義トシテ之カ支出又ハ收入ノ目的ヲ加味スルハ恰モ法律ノ定義ニ其法律ノ性質又ハ立法ノ目的ヲ加フルニ同シ租稅ナルモノハ必スモ此等ノ理想ノ遂行ヲ條件トシテ始メテ成立スルモノニアラサルハ固ヨリ言ヲ埃タサル所ナルヲ以テ予ハ租稅ニ定義シテ次ノ如ク謂ハントス

租稅トハ國家又ハ公共團體カ其經費ニ充ツルカ爲メ私人ヨリ徵收スル經濟的貨財ノ一般收納ナリ

第一租稅ハ國家又ハ公共團體カ其經費ニ充ツルヲ目的ト爲スモノナリ、國家又ハ公共團體ハ自己ノ生存發達ヲ爲スカ爲メ巨額ノ經費ヲ要ス然レトモ其私有財產又ハ營業ニ由ル收入ヲ以テ之カ支辨ヲ充スコト能ハス其大部ヲ租稅收入ニ仰クニ至リシハ近時國家ノ發達ニ伴フ自然ノ數ナリトス

第二租稅ハ私人ヨリ徵收スルモノナリ茲ニ私人ト云フハ權力團體ニ對シ服從ノ地位ニ在ル者ヲ謂ヒ自然人タルト法人タルト內國人タルト外國人タルトハ毫モ問ハサル所ナリ内外國人ノ別ヲ立テサルコトハ所謂國民義務說ニ對シ矛盾スル所アルカ如キモ租稅徵收ノ根據ト租稅徵收ノ範圍トハ自ラ問題ヲ異ニスルモノナリ國民ハ國家ヲ組織スルニ因リ國家ノ生存發達ニ必要ナル租稅ヲ納ムルノ義務アリ然レトモ租稅ヲ納ムル者ハ必スシテ國民タルコトヲ要索ト爲スモノニアラス國民ニアラスシテ其國ノ保護利益ヲ享受スル者ハ其保護利益ニ對スル報酬トシテ一定ノ納付ヲ命スルコトハ一方ニ於テハ自國民カ外國ニ

居住シテ其所在國ヨリ利益保護ヲ受クル場合ニ於テ其負擔ノ一部ヲ納付スルト同シク毫モ條理ニ反スルモノニアラス是レ課稅ノ根據ト課稅ノ範圍ト混同スヘカラサル所以ニシテ一方ニハ條理ノ觀念ハ常ニ實際ニ於テ社會上最モ勢力ノ大ナルコトヲ證明スルモノナリ其詳細ニ至リテハ後節租稅ノ原則公正ノ原則及ヒ租稅制度國稅及ヒ地方稅論ノ下ニ於テ説明スル所アルヘシ又徵收トハ公權ノ作用ニ依リ權力團體カ服從者ニ強制スル無償ノ納付ニシテ其種類分量徵收ノ方法及ヒ時期等ハ總テ權力者ノ定ムル所ニシテ毫モ服從者ノ選擇協定ヲ許スモノニアラサルコトヲ謂フ

第三租稅ハ經濟的貨財ノ一般收納ナリ茲ニ一般收納ト稱スルハ手數料官業官有財產ノ收入ノ如シ相互提供ノ原則ニ依リ各國特別ニ收納セラルルコトナク國家又ハ公共團體カ一般ニ絕對ノ收納ヲ爲スヘキコトヲ謂フ租稅ハ經濟的ノ貨財ナリ故ニ非經濟的貨財即チ自由貨財ハ租稅ト爲ルコトヲ得ス然レトモ經濟的貨財ハ有形ト無形トヲ論セス均シク租稅ト爲ルコトヲ得ヘキカ若シ無形ノ貨財モ均シク租稅ト爲ルコトヲ得ヘシトスルモ金錢ヲ以テ之カ價格ヲ評量

スルコトヲ得ヘキ夫役ノ如キモ金錢ヲ以テ之カ價格ヲ評量スルコトヲ得サル
 兵役ノ如キモ均シク租稅ト視ルヘキヤ是レ學說ノ歧カナル所ナリ
 夫役ノ如キハ地方團體カ負擔者ノ利益ヲ圖リ之カ負擔ヲ輕減センカ爲メ金錢
 ノ代納ヲ許スヲ原則ト爲スモノナルヲ以テ府縣制第一一二條郡制第九二條市
 制第一〇一條町村制第一〇一條參照此等ノ場合ニ於テハ之ヲ租稅ト看做スモ
 不可ナルコトナシ然ルニ兵役ノ如キ忠實服從ノ義務ヲ有スル勤勞ハ金錢ヲ以
 テ評量シ得ヘキモノニアラサルカ故ニパスターブル兵ノ如キハ兵役ノ如キハ
 性質上租稅ノ一種ト視ルヘキモ形式上ニ於テハ租稅ト視ルヘカラスト云ヘリ
 固ヨリ理論上兵役ノ如キモ租稅ノ一種ト視ルヘキモノニシテ殊ニ各國ノ沿革
 ニ徴スルモ古代ニ於テハ勤勞ハ租稅ノ重要ナル部分ヲ占メタリ我國大寶令ノ
 規定ニ依ルモ租庸調ノ三者ニ於テ庸ハ勤勞ノ一般徵收ヲ指セラルルモノニシ
 テ現品ノ代納ヲ許シタルモノナリ但シ今日ノ財務行政ノ實際ニ於テハ兵役ノ
 如キハ固ヨリ租稅ト認ムルコトナシ隨テ行政法等ニ於テハ租稅ト兵役ハ共ニ
 公權ノ作用タルニ於テハ一ナルモ其服從ノ主體カ兵役ニ於テハ内國人ニ限ラ

レ租稅ハ内外國人ニ通スル點ニ於テ其客體カ租稅ハ貨物ニ限ラレ兵役ハ勞務
 ニ限ラルル點ニ於テ其供用ノ方法カ兵役ハ直接ニ供用セラレ租稅ハ間接ニ供
 用セララルル點ニ於テ相異ナルモノトシ兵役ハ軍事行政ノ下ニ於テ明カニ相區
 別セララルル例ト爲セリ

租稅ノ觀念ヲ講述スルノ序次便宜ノ爲メ租稅ニ關スル用語ノ重ナルモノニ付
 キ其意義ヲ畧述スヘシ

第一 租稅ノ主體 租稅ノ主體即チ被稅者ニハ納稅者ト負稅者トノ別アリ納
 稅者トハ其姓名納稅額等カ租稅原簿ニ記入セラレ直接ニ租稅ヲ納付スル者ニ
 シテ負稅者トハ其租稅ヲ負擔シテ自己ノ所得又ハ財產中ヨリ支出スル者ヲ謂
 フ故ニ納稅者ト負稅者トハ同一人ナルコトアリ又ハ相異ナルコトアリ通常直
 接稅ナルモノハ納稅者ト負稅者ノ同一人ナルコトヲ豫期セル租稅ニシテ間接
 稅ナルモノハ納稅者ト負稅者ノ相異ナルヘキコトヲ豫期セルモノナリ

第二 租稅ノ客體 租稅ノ客體トハ租稅課課ノ標準ト爲ル人物又ハ事實ヲ謂
 フ即チ其人物又ハ事實ノ存在或ハ發生消滅ニ依リテ租稅ノ支拂ヲ爲スヘキモ

ノナリ通常汎ク總稱シテ課稅物件ト謂フカ課稅物件ト爲ルハ分頭稅ヲ課スル場合ナリ即チ此場合ハ租稅ノ主體ト客體カ同一ニ歸セル場合ナリ古代歐洲各國ニ於テハ人民ノ階級ニ應シ各相異ナレル稅率ノ分頭稅ヲ課シ今日ニ於テモ猶ホ普滯西國ノ等級稅ノ如キ又我沖繩ニ於ケル人頭稅ノ如キ多少ノ實例ナキニアラス物ヲ課稅物件ト爲ス場合ノ主要ナル物ヲ土地家屋等ノ不動產ト爲シ勤勞又ハ財產ニ因ル所得モ亦課稅物件ト爲スヲ例ト爲セリ事實ヲ課稅物件ト爲ス重ナル事實ハ營業契約財產ノ賣買贈與等ト爲ス

第三 稅源 稅源トハ租稅ノ流出スル源泉ナリ稅源ノ課稅物件ニ對スル關係ハ猶ホ負稅者ノ納稅者ニ對スル關係ノ如ク課稅物件ハ稅源ヨリ租稅ヲ吸收スル標準ト爲リ方便ト爲ルモノナルヲ以テ稅源ト課稅物件ハ相合致スルコトアリ又然ラサルコトアリ例ヘハ所得稅ノ如キハ其所得稅トシテ納ムル金額ハ其所得ノ一部ヨリ支出シ而モ其賦課ノ標準ハ所得ノ多寡ニ存スルヲ以テ稅源ト課稅物件ハ相合致スルモノナリ之ニ反シテ地租ノ如キハ其賦課ノ標準ハ土地ノ廣狹地代又ハ地價等ニ依リ其稅源ハ其土地ノ收益ニ在ルヲ以テ稅源ト課稅

住居スル成年者又ハ六週間以上國內ニ住居スル夫婦又ハ國內ニ於テ結婚シ若クハ生レタル者ハ其國ノ臣民タルヘント

日本國籍法モ亦近世ノ學理ニ鑑ミ可及的無籍人ヲ豫防スル方法ヲ採用セリ例ヘハ第七條第十三條第十五條第二十一條等是ナリ其他第四條ハ規定シテ曰ク「日本ニ於テ生レタル子ノ父母カ共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス」

佛國ニ於テハ千八百五十一年新ニ法律ヲ制定シ佛國ニ於テ生レタル男子カ同國ニ於テ生ミタル子ハ佛國人ナリト規定シ而シテ一方ニ於テハ成年後一年以內ニ佛國ノ國籍ヲ拋棄スルコトヲ許シタリ然ルニ千八百七十四年ノ法律ニ依レハ血統上ノ國籍ヲ現ニ有スル旨ヲ證明スルニアラサレハ佛國國籍ノ拋棄ヲ許サス而シテ千八百八十九年ノ改正法ニ依レハ佛國ニ生レタル外國人カ同國ニ於テ生ミタル子ハ佛國人タリ又成年ノ際佛國ニ住居スル外國人カ同國ニ於テ生ミタル子ハ成年後一年內ニ佛國ノ國籍ヲ拋棄シ且ツ父母ノ國籍ヲ有スル旨ヲ證明セサルトキハ佛國人タルヘシ此規定ニ依リテ幾分カ無籍人ノ發生ヲ

豫防スルコトヲ得タリ

甲國ノ國籍ヲ喪失シ而シテ未ダ乙國ノ國籍ヲ取得セザルカ爲メニ無籍人タルトキハ國際上如何ニ之ヲ處分スヘキヤ即チ何レノ國ノ臣民ト認ムヘキヤノ問題ニ付キ一ノ先例アリ露西亞ノ臣民カ南米ニ移住セントスルトキ起リタル實例ニシテ所謂「ナラト」事件ト稱スルモノ是ナリ此實例ニ依レハ從來ノ國家ニ屬スヘキモノト看做セリ即チ當時露西亞ノ國籍ヲ喪失シタル移民ヲ露西亞政府ハ其臣民トシテ國內ニ收容セリ

無籍人豫防ノ方法ニ付キ學者ノ主張スル所ヲ聞クニ多クハ外國國籍ノ取得ヲ以テ內國國籍喪失ノ原因ト認ムヘシト云ヘリ即チ外國ノ國籍ヲ取得シタル內國臣民ニ限リ內國ノ國籍ヲ失ハシムヘシト云フニ在リ然レトモ此說ヲ各國カ採用スルノ日ハ今日之ヲ豫知スヘカラス但シ此說ヲ實際ニ採用シタル例ハ往々ニシテ是アリ

國籍不分明ナル者ハ實際上無籍人ト同一ニ取扱ハル然レトモ「ブルンチユリ」ノ如キハ本人カ現ニ住所ヲ有スル國ノ臣民ト看做スヘシト云ヘリ此說正當

ナランカ但シ住所ヲ有セサル場合又ハ二箇以上ノ住所ヲ有スル場合ニ於テハ居所ヲ有スル國ノ臣民ト看做スヘキモノトス千八百六十九年土耳其國籍法第九條ニ曰ク「土耳其國ニ住スル者ハ其外國人タルコトヲ適法ニ證明スルマテ之ヲ土耳其ノ臣民ト看做シテ取扱フヘシト又千八百五十二年瑞西法律ニ依レハ聯邦内ニ住居スル無籍人ハ住居國ノ國籍ヲ取得ス

(五) 國籍ノ確定 國籍ノ確定ニ付テハ特別ノ機關ヲ設ケテ之ヲ司ラシムル制度アリ又一問題ノ生シタル裁判所又ハ行政廳ニ於テ之ヲ確定スル制度アリ第一ノ制度ハ佛國及ヒ埃太利ニ行ハルル所ニシテ第二ノ制度ハ日本其他多數ノ國ニ行ハルル所ナリトス而シテ第一ノ制度ヲ探ル國ニ於テモ佛國ト埃太利トハ全ク其趣ヲ異ニス即チ佛國ニ於テハ通常裁判所ニ於テ國籍ノ確定ヲ司ル治安裁判所又ハ行政裁判所ニ議員選舉又ハ兵役ノ訴訟等ヲ提起シタル場合ニ國籍ヲ確定スル必要アルトキハ通常裁判所ニ國籍確定ノ訴ヲ提起シ其判決アルマテ裁判ヲ中止ス嘗テ外國ノ軍隊ニ投シタルカ爲メ佛國ノ官職ト恩給ノ權利トヲ失ヒタル一士官アリシカ佛國ノ參事院ニ國籍確定ノ訴ヲ起セシニ參事院

ハ之ヲ管轄進ナリトシテ通常裁判所ニ之ヲ移シタルコトアリ而シテ國籍ノ裁判ヲ司ル通常裁判所ハ民事訴訟法ニ依リテ定マルモノトス然ルニ同國ノ制度ハ論理ヲ一貫セサルノ點アリ即チ刑事裁判所ニ公訴ヲ提起シタル場合ニ被告入ノ國籍ヲ確定スル必要アルトキハ刑事裁判所ニ於テ犯罪人ノ國籍ヲ確定スルコトヲ得ルコト是ナリ

佛國ニ於テ裁判所カ國籍ノ確定ヲ司ル理由ハ左ノ如クナルヘシ即チ同國ニ於テハ國籍ヲ以テ一ノ身分ト爲シ親族又ハ財産上ノ問題ト同シク民事ノ性質ヲ有スルモノト看做スニ因ル其他裁判官ハ行政官ニ比シ法律ノ智識ヲ備フルノミナラス國籍ノ問題ヲ確定スルカ爲メニハ往往外國ノ法律ヲ知ルノ必要アルコトモ亦行政官ヲシテ之ヲ確定セシメサル原因ナルヘシ而シテ佛國ノ議會ニ於テハ往往議員ノ資格ヲ審査スル必要ヲ生シタルトキ議會ニ於テ其國籍ヲモ併セテ裁判スル例アレトモ此裁判ハ議會以外ニ於テ何等ノ效力ヲ有スルモノニアラス國籍證明書又ハ旅行券ノ如キハ國籍ヲ確定スル方法ト爲ラス

埃太利ノ制度ハ國籍ノ確定ヲ司ル行政廳ヲ特ニ設置シ此官廳ニ於テ爲シタル

決定ハ他ノ官廳及ヒ裁判所ヲ驅逐スルモノト爲ス之ニ反シテ日本其他多數ノ國ニ於テハ國籍確定ノ必要ヲ生シタル裁判所又ハ行政廳カ職權上之ヲ決定スルモ其決定ハ他ノ官廳ヲ驅逐セス

以上佛埃二國ノ制度ヲ比較スルニ佛國ノ制度ヲ以テ優レリト爲ス何トナレハ佛國ノ學者カ謂ヘル如ク行政官ハ裁判官ニ比シテ法律ノ智識ニ乏シケレハナリ而シテ我國其他諸國ニ於テ國籍確定ノ爲メニ特別機關ヲ設ケサルハ頗ル危險ナリト云フヘシ即チ一國內ニ於テ國家ノ機關ハ國籍ノ確定ニ付キ一定スルコトナクシテ種種ニ決定ヲ爲スノ恐アレハナリ

(六) 國籍取得ノ時期 出生ニ因リ父母ノ國籍ヲ取得スル時期ハ懐胎ノ時ナルカ將タ出生ノ時ナルカ此問題ニ付キ歐洲大陸ノ學者ハ主張シテ曰ク懐胎ニ因リテ親子ノ關係ヲ發生スルカ故ニ血統ヲ基礎トシテ國籍取得ノ主義ヲ定ムル國ニ於テハ懐胎ノ時ニ父母ノ國籍ヲ取得シタリト解釋セサルヘカラスト之ニ反シ出生ノ時ニ父母ノ國籍ヲ取得シタリト説ヲ唱フル者ハ曰ク國家ト簡人トノ關係ハ出生以前ニ起ラサルモノナリ蓋シ國家ハ胎兒ヲ統御スル必要ナク

胎兒モ亦國家ノ保護ヲ受クルノ必要ナケレハナリト又曰ク實際上ヨリ云フモ出生ノ時期ハ容易ニ之ヲ知リ得ルモ懷胎ノ時期ハ之ヲ知ルヲ得サルカ故ニ國籍取得ノ時期ハ出生ノ時ナリト云フヘト其他佛國ノ學者中左ノ如キ說ヲ爲ス者アリ曰ク生子ノ父又ハ母カ懷胎ノ時又ハ出生ノ時ニ佛國人ナルトキハ其子モ佛國人ナリト即チ此說ニ依レハ出生ノ時ニテモ將タ懷胎ノ時ニテモ佛國ノ國籍ヲ取得スルニ便利ナル時ヲ標準ト爲スモノナリ此說ノ唱道者ハ少數ニシテ其論據モ鞏固ナラス又出生說ヲ採ル學者中ニモ殊ニ佛國羅馬法以來一般ニ行ハルル胎内ノ子ト雖モ其利益ヲ保護スル場合ハ既ニ出生シタルモノト看做スヘシトノ原則ヲ根據トシテ說ヲ立ツル者アリ然リト雖モ此說ハ左ノ駁撃ヲ受ケタリ曰ク子ニ利益アル場合ニハ佛國人ト爲リ子ニ不利益ナル場合ニハ外國人ト爲ル結果ヲ生スヘシ且ツ如何ナル場合ニ子ニ利益アリト看做スヘキヤ否ヤノ問題ヲ決定スルハ容易ノ業ニアラス此ノ如ク種種ノ學說アレトモ出生ノ時ヲ以テ標準ト爲スハ各國ノ法律ニ於テ多ク明記スル所ナリ日本國籍法ノ如キ即チ是ナリ

(七) 國籍ノ效果 國籍ノ效果トハ自國ノ臣民トシテ享有スルコトヲ得ル利益又ハ負擔ニシテ外國人ノ享有シ若クハ負擔スルコト能ハサル所ノモノナリ今左ニ其主要ナル效果ヲ列舉スヘシ

第一 外交上ノ保護 外國ニ在留スル自國ノ臣民カ外國政府ノ爲メニ權利ヲ侵害セラレタル場合ニ内國政府カ與フル所ノ保護ハ即チ外交上ノ保護ニシテ自國ノ臣民ニ限リ之ヲ與フヘキモノトス獨逸憲法ノ如キハ獨逸國ノ臣民ハ此保護ヲ受クル權利ヲ有スル旨ヲ明言セリ北米合衆國ニ於テハ外國人ニ外交上ノ保護ヲ與ヘタル例尠カラサルカ故ニ外交上ノ保護ハ自國臣民ノ特權ニアラスト云フ者アリ成ル程北米合衆國カ外國人ニ外交上ノ保護ヲ與フルハ事實ナリト雖モ此外國人タルハ將來同國人ト爲ルヘキ意思ヲ宣言シタル者ニ限ルカ故ニ右ノ論ハ敢テ有力ナル反對說ニアラス而シテ外交上ノ保護ハ右ニ示シタル如ク外國政府ノ行爲ニ對スル場合ニ限リ外國臣民ノ爲メニ權利ヲ侵害セラレタル場合ニ於テハ外交上ノ保護ヲ與フヘキモノニアラス即チ外國ノ當該機關ニ向テ權利侵害ノ保護ヲ求ムルハ自國臣民ノ行フヘキ所ニシテ若シ當該機關

カ救済ヲ拒ミタル場合ニ始メテ外交上ノ保護ヲ爲スヘキモノトス故ニ往往外交上保護ヲ稱シテ第二保護ト云フ者アリ蓋シ外國ノ當該機關ノ保護ニ對スル名稱ナリトス

第二 國內ニ住居スル權利 外國人ハ公安ヲ侵害スル場合ニ之ヲ追放スルコトヲ得ルハ今日ノ國際法ニ於テ是認セラレタル所ナリトス然ルニ自國ノ臣民ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ國外ニ放逐スルコトヲ得ス但シ近年佛露二國カ自國ノ臣民ヲ國外ニ追放シタルコトアリシカ大ニ世上ノ非難ヲ蒙リタリ

第三 參政權 參政ノ權利ハ內國臣民ノミ享有スルヲ常態トス然ルニ近來漸漸此狀況ヲ變スルニ至レリ例ヘハ埃太利ニ於テハ「ブレスラウ」公及「ヒリヒト」公ニスタイン公ニ貴族院ニ列スル權利ヲ與ヘタリ又人口ノ夥少ナル南米諸國ニ於テハ外國人ニ自ラ所願ル多キカ故ニ外國人ニ參政ノ權利ヲ與フル例尠カラス其他布哇ニ於テハ千八百八十七年憲法改正ノ際外國人ニシテ歐米ニ生レタル者ハ又其者ノ子ハ布哇ニ於テ參政ノ權利ヲ有スル旨ヲ定メタリ此規定タルヤ日布條交條約ニ抵觸スレカ故ニ兩國間ニ國際紛議ヲ生シタルコトハ普ク世

人ノ知ル所ナリ又米國ニ於テハ將來米國ノ臣民トナルヘキ意志ヲ宣言シ且ツ一定ノ期間米國ニ住居スル外國人ニ參政ノ權利ヲ與フ之ニ反シテ自國ノ臣民ト雖モ參政ノ權利ヲ制限セラレタル例又尠カラス例ヘハ佛蘭西及ヒ北米合衆國ニ於テハ歸化人ニ一定ノ期間國家ノ重職ニ就クコトヲ許サス

第二節 國籍ノ取得及ヒ喪失

第一款 出生ニ因ル國籍ノ取得

第一項 汎論

人カ出生ニ因リテ取得スル國籍ヲ名ケテ固有國籍ト云フ而シテ固有國籍ヲ取得スル主義凡ソ三アリ生地主義血統主義及ヒ折衷主義即チ是ナリ

第一 生地主義 生地主義ハ一時歐洲ニ行ハレ英國ニ於テモ近來マテ此主義ヲ實行セシカ今日ニ於テハ僅ニ南米諸國ニ於テ行ハルルノミ今此主義ニ依レハ自國內ニ生シタル子ハ其父母ノ國籍如何ヲ問ハス總テ自國ノ臣民ト爲ス學者或ハ此主義ヲ名ケテ屬地主義ト云ヒ血統主義ヲ屬人主義ト云フ者アリ今生地

主義ノ長所ヲ舉ケレハ國籍ノ證明カ容易ナルコト是ナリ蓋シ自國內ニ生レタル事實ハ容易ニ之ヲ證明スルコトヲ得レハナリ然レトモ此主義ハ元來封建思想ノ結果ニシテ法律上根據ヲ缺クモノナリ今其弱點ヲ左ニ示スヘシ

(一) 此ノ主義ニ依レハ一家ノ内ニ國籍ヲ異ニスル者ヲ生スルニ至ルヘシ即チ親子兄弟其生地ヲ異ニスル場合ニ各國籍ヲ異ニスルコト是ナリ而シテ國籍ヲ異ニスルトキハ一家ノ平和ヲ障害スル虞アリ

(二) 此主義ハ偶然ノ事實ニ根據スル弊アリ蓋シ封建時代ニ於テハ内外人ノ交通頻繁ナラサルカ故ニ一國內ニ生ルル者ハ大抵自國臣民ノ子ナラサルハナシ故ニ封建時代ニ於ケル生地主義ハ實際上血統主義ト殆ト異ナルコトナシト雖モ今日ニ於テハ交通ノ途益々開ケ内外人ノ交通愈々頻繁ヲ極ムルカ故ニ旅行中ニ子ヲ生ムノ事實ハ其例頗ル多シ然ルニ生地主義ハ此事實ヲ根據トシテ國籍ヲ定ムルカ故ニ永久的ノ性質ヲ有スル國籍ノ性質ニ背反スト云フヘシ此ノ如キ弱點アルニ拘ラス南米諸國カ今日尙ホ之ヲ實行スルハ全ク人口稀少ナルノ結果ナリ

第二 血統主義 此主義ニ依レハ生子ハ内國ニ生レタル否トヲ問ハス父又ハ母ノ國籍ヲ取得スルモノニシテ例ヘハ日本人ノ子ハ何レノ國ニ於テ生ルルモ日本人ナリ蓋シ此主義ハ血統ヲ基礎トスルモノニシテ國家ノ基礎ヲ鞏固ニスル利益アリ隨テ此主義ヲ贊成スルモノ頗ル多シ然レトモ此主義ヲ學理上ヨリ研究スルトキハ國家成立ノ大問題ニ衝突スル虞アリ蓋シ此主義ニ依レハ生子カ例ヘハ日本人タルコトヲ證明セント欲セハ先ツ其父母ノ日本人タルコトヲ證明セサルヘカラス而シテ其父母ノ日本人タルコトヲ證明セント欲セハ又其祖父母ノ日本人タルコトヲ證明セサルヘカラス此ノ如ク漸次祖先ニ遡リテ其國籍ヲ證明スル必要アルカ故ニ結局日本人ノ祖先ハ如何ニシテ日本ノ國籍ヲ取得シタルヤ反言スレハ日本國ハ如何ニシテ成立セシヤノ問題ニ追及セサルヲ得ス然ルニ此問題ニ付テハ已ニ總論ニ於テ説明セシ如ク學者間ニ定説ナキヲ如何セン

今日血統主義ヲ採用スル國ハ獨逸奧地利等ノ數國ニ過キス此ノ如ク今日此主義ヲ採用スル國ノ少キ理由ハ他ナシ生地主義ヲ或程度マテ採用スルニアラサ

レハ不便ナレハナリ例ハ内國ニ於テ數代引續キ生マレ且ツ住居シタル者ノ子孫ハ其實血統上内國ノ臣民タル者ト甚タ相異ナラサルニ拘ラス血統主義ノ結果内國ノ臣民ト爲ルコト能ハサルヘシ是レ實際ノ關係ニ適合セザルモノト云フヘシ故ニ近來ニ於テハ血統主義ト生地主義ヲ調和シタル所謂折衷主義ヲ生スルニ至レリ

第三 折衷主義 血統主義ハ生地主義ニ比シテ勝ル所アリト雖モ之ヲ絶對ニ實行スヘカラサルコトハ右ニ説明セシ所ナリ是ニ於テ歐米諸國ハ此二主義ヲ調和シタル折衷主義ヲ採用スルニ至レリ然ルニ折衷主義ニ二種アリ第一種ハ血統主義ヲ基礎トシテ之ニ生地主義ヲ加味シタルモノナリ此種ノ折衷主義ニ依レハ自國臣民ノ子ハ何レノ國ニ生ルルモ自國臣民ニシテ外國人カ生ミタル子ハ内國ニ於テ生ルルモ外國人ナリトス(血統主義ヲ基礎トセテ點茲ニアリ)但シ自國ノ領地ニ生レタル外國人ハ簡易ノ條件ヲ以テ生地ノ國籍ヲ選擇スルコトヲ得ヘシ(生地主義ヲ加ヘタル點ハ茲ニアリ)第二種ハ生地主義ヲ基礎トシテ之ニ血統主義ヲ加味シタルモノナリ此ノ主義ニ依レハ父母ノ國籍如何ヲ問ハ

シ其地租ハ三百七十三萬餘圓ヲ減ス然ルニ法律ノ規定ニ基キ明治三十二年二月一日ノ現在地價ニ按分シテ修正ヲ爲シタル結果ニ依レハ地價一億四千八百五十九萬餘圓地租三百七十一萬餘圓ヲ輕減スルコトト爲レリ即チ法律ノ豫定ト實際ノ結果トハ地價ニ於テ七十餘萬圓地租ニ於テ二萬圓弱ノ差數ヲ見タリ然レトモ實際ニ於テハ法律第二條ノ規定ニ依リ地價ノ修正ヲ爲サザリシモノアリシヲ以テ其地價七十餘萬圓ヲ除キテ對照スルトキハ殆ト大差ナキノ結果ヲ得タリト云フ

右地價修正法ノ公布ト共ニ併セテ地租條例中改正法律公布セラレ明治三十二年ヨリ同三十六年マテハ地租ハ地價百分ノ二箇半ノ定率ノ外市街宅地ハ地價百分ノ二箇半其他ノ有租地ハ地價百分ノ八ヲ増徴セララルコトト爲レリ蓋シ戰後我歲計ノ膨脹ニ伴ヒ歲入ヲ増加スルノ必要アリ明治三十年新ニ稅目ヲ起シ又ハ從來ノ稅額ヲ増加シタルモノ尠カラス而シテ地租モ亦其一ニ加ヘラレタルナリ

地租條例ノ改正ニ依リ市街宅地ハ他ノ有租地ニ比スレハ其負擔ハ甚タ重キモ

ノト爲レリ然ルニ當時ニ於ケル市街宅地郡村宅地ノ區別ハ專ラ改租ノ成績ニ依リタルモノナリト雖モ地租改正以來運輸交通ノ異同商工業ノ發達等時勢ノ變遷ニ因リ盛衰其位ヲ替ヘ冷熱其地ヲ轉倒スルアリ市街宅地ノ地目ヲ有スル土地ニシテ其實村落ニ異ラサルアリ郡村宅地ノ地目ヲ有スルモノニシテ其狀嚴然市府ノ態ヲ爲スモノアラ故ニ當時ノ稱呼ニ依リ直チニ改正地租條例ヲ適用スルトキハ宅地地租ノ負擔ニ於テ甚シキ不權衡ヲ生スルニ至リシナルヘシ是ニ於テ明治三十二年法律第六十二號ヲ以テ宅地ノ租換ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムヘキヲ規定セラレ尋テ同年勅令第二百三十四號ヲ以テ宅地ノ租換ヲ爲スヘキモノヲ定メラレタリ

今地價修正地租増徴及ヒ宅地租換ヲ完結シタル後ニ於ケル有租地反別地價地租ヲ見ルニ左ノ如シ

地目	反別	地價	地租
田	二、七四一、〇一二 ^阿	九八七、五一〇三三〇 ^四	三三、五八七、九八六 ^四

畑	二、二五八、五〇五	二二七、二〇五、三〇五	七、一五七、六四二
郡村宅地	三、五八七、七五三	一〇七、四二一、九三三	三、五〇六、九八九
市街宅地	二、五二二、二七	三六、一八四、二六六	一、七四六、三五一
鹽田	七〇九、四	一、五六六、一四三	六六〇、五六六
鑛泉地	二八	五七七、一六	一、九〇四
池沼	一、〇五六	一一五、五一九	四、一三二
山林	七、一五六、六三七	二四、一五一、八六三	七、九五三、八九
牧場	一九一、五三	三〇、五七九	五九五
原野	一、〇四二、二五九	二、三六三、八三六	七、七六五、七
雜種地	一、〇五四、三	九、一三四、六二	一、一一七、三
計	一、三六二、〇二四八	一、三三七、七五三〇、九〇二	四五、九五五、八六四

備考 荒地ヲ除ク

右地租四千五百九十五萬五千八百六十四圓定率ニ依ルモノ三千四百三十八萬

六千五百五十五圓増徴ニ係ルモノ千五百五十六萬九千三百九圓ヨリ成ルヲ以テ明治三十七年ニ至レハ地租ハ當然三千四百三十八萬餘圓ト爲ルモノトス以上述フル所ハ明治年間ニ入りタル後ニ於ケル地租沿革ノ概略ナリ地租ハ土地ナル不動物ノ上ニ係ル負擔ニシテ税法ハ如何ニ改正セラレルモ其課稅ノ目的タル土地ハ變セザルヲ以テ現行地租ノ如何ヲ知ルニハ常ニ其沿革ヲ知ラザルヘカラス故ニ予ハ地租ノ沿革ヲ述フルニ當テハ特ニ或法規ノ法文ヲ挿入シテ改正ノ本ツク所ノ根據ヲ明ニシ以テ讀者ノ了解ニ資センコトヲ勉メタリ

第二節 現行地租

現今我邦ニ於ケル地租ハ臺灣ヲ除キテ之ヲ言フモ尙ホ地方ニ因リ之カ法規ヲ同シクセス内地一般ニ於テハ地租條例其他各種ノ法令ノ定ムル所ニ依リ地租ヲ徵收スト雖モ北海道沖繩縣伊豆七島小笠原島ニ於テハ地租條例ハ施行ナク北海道ニ於テハ特別ノ法令施行セラレ沖繩縣伊豆七島及ヒ小笠原島ニ於テハ專ラ舊慣ニ依リ地租ヲ徵收ス故ニ地租ニ關スル一斑ヲ知ラント欲セハ成文法ニ於テ

ハ凡ソ左ノ法令ヲ參看セサルヘカラス

- 一 明治十七年布告第七號 地租條例
- 二 明治三十二年勅令第百十一號 地租條例施行規則
- 三 明治七年布告第百二十號 地所名稱區分
- 四 明治三十二年法律第六十二號 宅地組換法
- 五 明治三十二年法律第五十七號 地價錢位未滿計算方
- 六 明治二十二年勅令第三十九號 土地臺帳規則
- 七 明治二十二年大藏省令第六號 土地臺帳規則施行細則
- 八 明治二十二年司法省令第三號
- 九 明治三十二年法律第二十四號 不動産登記法
- 十 明治三十二年司法省令第十一號 不動産登記法施行細則
- 十一 明治三十三年法律第十九號
- 十二 明治三十一年法律第四號
- 十三 明治二十年勅令第十二號 私設鐵道條例

- 十四 明治三十三年法律第六十四號 私設鐵道法
- 十五 明治二十三年法律第九號 水道條例
- 十六 明治三十年法律第二十九號 砂防法
- 十七 明治三十二年勅令第三百七十四號
- 十八 明治三十年法律第四十六號 森林法
- 十九 明治三十一年大藏省令第十八號
- 二十 明治十九年勅令第十六號 學事通則
- 二十一 明治二十一年勅令第六十二號 東京市區改正條例
- 二十二 明治三十二年法律第一百五號 要塞地帶法
- 二十三 明治三十一年勅令第一百七十六號
- 二十四 明治三十年法律第三十九號
- 二十五 明治三十年大藏省令第十九號
- 二十六 明治三十二年法律第八十二號 耕地整理法
- 二十七 明治十年布告第十八號 收稅除稅區分

- 二十八 明治二十四年法律第二號 地租徵收期限
 - 二十九 明治三十年法律第五號
 - 三十 明治九年布告第六十一號 北海道地租定率
 - 三十一 明治十年開拓使乙第二十五號布達 北海道地租納期
 - 三十二 明治十年開拓使第十五號達 北海道地券發行條例
 - 三十三 明治二十二年法律第十八號
 - 三十四 明治二十三年法律第七十九號 屯田兵土地給與規則
 - 三十五 明治三十年法律第二十六號 北海道國有未開地處分法
 - 三十六 明治三十二年法律第二十七號 北海道露土人保護法
 - 三十七 明治二十二年大藏省令第十二號 北海道地租納期
 - 三十八 明治二十四年北海道廳訓令第四十六號 民有土地整理方
 - 三十九 明治三十二年法律第五十九號 沖繩縣土地整理法
- 右ニ列舉スル法令ノ外該法令ノ規定ニ本テ發セラレタル命令又ハ震災水害蠲
害等ニ因ル特別處分ニ關スル法令ノ發布セラレタルモノナキニアラスト雖モ

其法規タル性質上自ラ永遠遵奉セラルヘキモノニアラサルカ故ニ茲ニハ其掲載ヲ省略ス

内地一般ニ行ハルル地租ニ付テハハ一地方ニ特殊ナル地租ニ付テハ特ニ之カ説明ヲ爲ササルモ法文ヲ一讀シタルノミヲ以テ其如何ナルモノナルヤヲ知ルコトヲ得ヘドト信スルカ故ニ茲ニハ唯内地一般ニ行ハルル地租ニ付テノミ解説ヲ試ムヘシ

第一款 課税ノ目的

地租ハ土地ニ賦課スル租税ナルヲ以テ地租賦課ノ目的物ハ土地其物ナリト謂ハサルヘカラス故ニ我法力ノ及フ範圍内ニ屬スル土地ハ苟モ法規ヲ以テ地租ヲ賦課セサルコトヲ定メタルモノニアラサル限リハ其何人ニ屬スルヲ問ハス總テ地租ヲ納ムルノ義務ヲ負擔スルモノトス人或ハ地租ヲ以テ土地ノ收益ニ賦課スルノ租税ナリト謂フ者アリト雖モ現行地租ノ制度ニ於テハ之ヲ土地ノ收益ニ課スルモノト謂ハムヨリハ寧ロ土地其物ニ課スルモノト謂フヲ常レ

リト謂ハサルヘカラス凡ソ租税ハ獨リ地租ニ限ラス其他ノモノト雖モ其額納稅者ノ所得ニ比シ一定ノ比例以下ニ在ルニアラサレハ生産力ヲ阻廢セシムルノミナラス收税ノ目的モ亦之ヲ違スルコト能ハサルカ故ニ地租モ亦其課額ハ土地ノ收益ニ對シ常ニ一定ノ比例以下ニ於テ其一部ニ相當スルモノナラサルヘカラスハ勿論ナリ然レトモ是レ立法ノ趣旨ニ於テ此ノ如クナラサルヘカラスト謂フノミ成文法ノ適用ニ於テハ常ニ必スシモ此ノ如クナリト謂フニアラス地租改正前ニ於テハ地租ノ殆ト全部ヲ負擔シタル田畑ニ在テハ檢見法ニ依リ收穫ノ豐凶ヲ調査シ作物ノ豐凶如何ニ由リ定免ヲ斟酌シテ地租ヲ徵收シタルヲ以テ此時代ニ於テハ或ハ地租賦課ノ目的ハ土地其物ニ在ラスシテ土地ノ收益ニ在リタリト謂フコトヲ得サルニアラザリシナルヘシト雖モ地租改正ノ大主眼ハ實ニ此檢見法ヲ廢スルニ在リシヲ以テ地租ハ土地收益ノ一部ヲ徵收スルヲ目的トシ後ニ説明スヘキカ如ク一種ノ算法ニ依リ標準ヲ定メ年年一定ノ租額ヲ賦課シ年ノ豐凶ニ因リテ之ヲ増減セサルコトト爲シ以テ檢見制度ヲ廢止シタルカ故ニ改正成就ノ後ニ於テハ全般ニ於テ地租ハ土地收益ノ一

部ヲ徵收スルモノナリトノ理論ヲ實行スルモノナリト雖モ各箇ノ土地ニ就テ之ヲ見ルトキハ此理論ハ時ニ或ハ行ハレサルコトアルヲ免レス蓋シ收益主義ハ檢見制度ヲ離レテ之ヲ行フコト能ハス定額主義ハ檢見制度ト相容レサルモノナルヲ以テ既ニ檢見法ヲ廢シテ定額論ヲ實行シ地租ハ年ノ豐凶ニ因リ増減セラルノ(地租條例第二條大原則ヲ立ラタル以上)地租ハ場合ニ因リテハ其土地ノ收益ノ一小部分ニ過キサルコトアリ又時トシテハ其土地ノ收益以上ニ上ルコトナキニアラス果シテ然ラハ之ヲ以テ土地ノ收益ニ課スルモノナリト謂フハ事實ニ適セサルノ論ト謂ハサルヘカラス故ニ予ハ地租賦課ノ目的物ハ土地其物ニ在リト斷言スルモノナリ

地租ハ土地ニ賦課スル租稅ナリト雖モ土地ハ悉ク地租ヲ負擔スルモノニアラス地租賦課ノ目的ハ獨リ地租ヲ負擔スル土地ニ在リト雖モ地租ヲ負擔スル土地ヲ明ニセント欲セハ併セテ之ヲ負擔セサル土地ヲ明ニセサルヘカラサルカ故ニ本款ニ於テハ先ツ第一ニ地租ヲ課スル土地ト之ヲ課セサル土地トヲ分類シ然ル後土地ノ區域ヲ明ニシ彼此ノ別ヲ定メムトス

第一 土地ノ分類

土地ハ地租ノ有無ニ依リ大別シテ有租地無租地ノ二ト爲スコトヲ得

一 有租地

地租條例第三條ハ便宜有租地ヲ區別シテ第一類及ヒ第二類ノ二地類ト爲シ土地ノ形狀又ハ其使用ノ目的ニ依リ更ニ其各類ヲ細別シテ左ノ地目ト爲シタリ

第一類 田畑郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

左ニ各地目ノ何物ナルヤニ付キ簡短ニ說明セムトス

(イ) 田 田トハ養水ノ利ニ依リ耕作ヲ爲ス設備ヲ爲シタル土地ヲ云フ即チ田ノ特徵ハ其設備養水ノ利ニ依ル耕作ヲ爲スニ適スルニ在リ故ニ土地ノ設備ニシテ此ノ如キ狀態ヲ呈スルトキハ時ニ養水ヲ用ヒスシテ耕作ヲ爲スコトアルモ尙ホ之ヲ田ト謂ハサルヘカラス而シテ其培植スル作物ノ稻ナルト將タ蒔蒔姑等ノ如キモノナルト若クハ其作付セラレル部分ノ年年一定スルト否トノ如キハ其田タルニ於テ何等ノ妨ヲ爲スモノニアラス

(イ) 畑 畑トハ養水ノ利ニ依ラスシテ耕作スル土地ヲ云フ換言スレハ畑トハ田ニアラサル耕地ナリ如何ナル状態アレハ之ヲ耕作ヲ爲スモノト謂フコトヲ得ヘキヤハ事實ノ問題ニシテ場合ニ依リテハ認定ニ困難ナルコトナキニアラサルヘシ一時ハ専ラ土地ニ栽植セラルル植物ヲ見越類菜蔬及ヒ所謂三草麻藍紅花西木桑茶桔漆ノ類ヲ栽植スル土地ヲ以テ畑ト爲スヘキモノナリト爲シタルカ如シト雖モ植物ノ種類又ハ其生育ノ狀況ハ以テ畑ト畑以外ノ土地トヲ分ツノ準的ト爲スコト能ハス區別ノ標準トシテハ耕作ヲ爲ス地ナルヤ否ヤヲ以テ之ヲ定ムヘキモノト爲シ事實ニ於テハ實地ノ狀況ヲ斟酌シテ認定ヲ爲スヘキモノトス而シテ既ニ耕作ヲ爲ス土地ナル以上ハ切替畑燒畑ノ如ク間斷ヲ置テ耕作ヲ爲スモノト雖モ之ヲ畑ト爲ササルヘカラス

(ハ) 郡村宅地 郡村宅地トハ村落又ハ小市街ニ於ケル建物敷地ニ供用スル土地ナリ宅地トハ人ノ居住ニ供スル家屋ノ敷地ナルカ如シト雖モ地租條例ノ所謂宅地トハ廣濶ナル意義ニ於テ之ヲ用フルモノニシテ苟モ建造物ノ敷地ナル以上ハ其建造物ハ住居用ニ供用セララルモノナルト將タ他ノ目的ニ供用セラ

ルモノナルトヲ問ハス總テ之ヲ宅地ト稱スルナリ而シテ供用ノ目的ニシテ建物ノ敷地ト爲スニ在ルトキハ現ニ建物ノ存セサル場合ニ於テモ尙ホ郡村宅地タルヲ妨ケサルモノナリ

(ニ) 市街宅地 市街宅地トハ市街ニ於ケル建物敷地ニ供用スル土地ナリ法律ハ市街ト見ルヘキモノノ具備スヘキ條件ヲ規定セスト雖モ現今建物敷地ニ供用スル土地ニ付スルニ市街宅地ノ地目ヲ以テスル地方ハ市街ナルカ故ニ其宅地ヲ市街宅地ト稱スルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ該地方ハ則チ法律ノ見ヲ以テ市街ト爲ス所ノモノト謂フコトヲ得ヘシ

(ホ) 鹽田 鹽田トハ海水ヨリ鹽分ヲ採取スルカ爲メ其目的ニ供用スル土地ヲ云フ故ニ海水ヲ撒布スル場所ハ勿論鹽溜鹽竈等ノ在ル場所モ亦之ヲ包含スルモノトス

(ニ) 鑛泉地 鑛泉地トハ其名稱ノ示ス如ク温冷ノ鑛泉湧出スル地ヲ云フ
(ト) 池沼 池沼トハ自然ニ存スルモノト人工ニ成ルモノトヲ問ハス水ノ滯溜スル地ヲ云フ但シ田地ノ灌溉ニ供スルノ目的ヲ以テ水ヲ滯溜スル場所即チ溜

池ハ有租地ニ屬セサルカ故ニ池沼ナル地目ヲ付スヘカラサルハ無論ナリ從來ノ取扱ニ依レハ井戸敷、水車溝ノ如キモ之ニ池沼ナル地目ヲ付シタルカ如シト雖モ井戸敷又ハ水車溝ノ如キハ普通ニ池又ハ沼ト稱セサルモノナルカ故ニ之ニ池沼ナル地目ヲ付スルハ當ラサルカ如シ

(イ) 山林 山林トハ耕作ニ依ラスシテ竹木ノ生育スル土地ヲ云フ但シ嶺山又ハ石山ノ如キハ竹木ノ生育如何ニ拘ラス之ニ山林ナル地目ヲ付ス

(ロ) 牧場 牧場トハ牛馬羊等ノ獸畜ヲ放牧スル場所トス

(ハ) 原野 原野ハ耕作ニ依ラスシテ灌木、雜草ノ生育スル土地ナリ但シ實際ニ於テハ茲ニ謂フカ如キ土地ニシテ山林ナル地目ヲ付スルモノナキニアラス蓋シ供用ノ目的竹木ヲ仕立ツルニ在リシモノ事實其供用ヲ爲ササルモ第二類地ノ地目ハ嚴正ニ之ヲ變換スルノ手續ヲ爲ササルモノアルニ由ルモノトス
(ニ) 雜種地 雜種地トハ以上各地目ニ包含セラレサル土地ヲ云フ故ニ有租地ニシテ他ノ地目ニ該當セサルモノハ總テ之ヲ雜種地ト爲ササルヘカラス

二 無租地

法律ノ用語ニ依ルトキハ無租地ハ之ヲ地租ヲ課セサル土地ト地租ヲ免スル土地トニ分ツコトヲ得ヘシ

甲 地租ヲ課セサル土地

地租ヲ課セサル土地ハ明治七年第二十號布告地所名稱區別ヲ以テ之ヲ定ム同布告ニ依レハ土地ニシテ地租ヲ課セサルモノハ官有地及ヒ民有地第二種ナリトス然レトモ地所名稱區別ノ定メテ民有地第二種ト爲ス所ノモノハ悉ク地租條例ノ免租地ト稱スルモノノ中ニ包含セラレルヲ以テ今日ニ於テハ之ヲ地租ヲ免スルノ土地ト爲スヘク之ヲ地租ヲ課セサル土地ト稱スヘカラス

明治七年第二十號布告ノ所謂官有地ナルモノハ他ノ法律ニ於テ稱スル官有地トハ白ラ同シカラサル所アリ同布告發布ノ當時ニ於テハ立法者ハ所有權ノ主體ニ關シ今日ノ如ク精密ナル觀念ヲ有セザリシヲ以テ同布告ノ所謂官有地ナルモノハ其名稱ノ示スカ如ク〔〕リ國ニ屬スル土地ノミヲ指スモノニアラス同布告ハ土地ヲ官有地民有地ニ二大別スルヲ以テ官有地トハ民有地ニアラザル土地ノ義ナリト解スルコトヲ得ヘシ而シテ民有地ハ人民又ハ町村ノ所有ニ

係ル土地ヲ指スコト其明文ニ於テ疑ヲ容レサル所ナルカ故ニ同法ノ所謂官有地トハ人民又ハ町村ノ所有ニ係ラサル土地ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ當時法律上公共團體ナルモノノ認メラレタルコトナカリシヲ以テ土地ニシテ人民又ハ町村ニ屬セサルモノハ皇室ニ屬スルニアラサレハ必ス國ニ屬シタルモノナリ故ニ地名稱區別ニ於テ官有地ト稱スルハ左ノ各種ノ土地ヲ包含スルモノトス

(イ) 御料地 皇居離宮ノ敷地ハ勿論荷モ皇室ノ御料ニ屬スル土地ハ總テ地租ヲ課セサルモノトス

(ロ) 國有地 國ニ屬スル土地ハ其神地タルト其他ノ目的ニ供用セラレル土地タルトヲ問ハス總テ地租ヲ課セス蓋シ國カ國ニ對シテ租稅ヲ納ムルモ國庫ノ收入ハ爲メニ何等ノ増加ヲ來サス却テ徒ニ勞費ヲ要スルニ過キサルヲ以テ初

コリ之ヲ課セサルヲ得策トスルヲ以テナリ

外國人カ元居留地ニ於テ有スル永代借地權ナルモノノ目的タル土地ハ人民ニ屬スルモノナキニアラスト雖モ其多クハ國ニ屬スルモノナリ其國ニ屬スルモ

校外生規則摘要

- 一 講義録、毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 講義録、之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金、全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聴スルコト及々本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校内生ニ等級ニ編入セララルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得
- 一 但シ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三ヶ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係トスヘシ

明治廿二年十二月九日 内務省許可

明治三十三年五月廿一日印刷

明治三十三年五月廿五日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

編輯者 小田 幹 治 郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷者 金子 鐵 五 郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子 活 版 所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

（電話番町百七十四番）